



世の光 (Ⅱ)

目次

カナンにおけるイスラエル	5
ギデオン	10
サムソン	15
エリとその息子たち	20
サムエルの時代に	26
イスラエルの最初の王	31
ダビデ王	36
ダビデの悔い改めと懲罰	41
ソロモン	47
嘆かわしい過ちからの教訓	52
アサ王	57
ヒゼキヤ王	62
国家的な怠慢からの教訓	67

セブンスデーアドベンチスト
改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.90, No.2

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations:
Good Salt on front cover;
MapResources on pp. 4, 46,
and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

この四半期の間、わたしたちはどのようにして、士師や王たちの時代に、イスラエルが国家として神より受けた聖なる信任を果たすことに失敗したかを見ていきます。そしてわたしたちは彼らの怠慢のゆえに、神が彼らを諸国の間に散らされたことも見ていきます。

しかしながら、聖書はすべての人が失われたのではないことを明らかにしています。国家的な背教の中で、神は忠実な礼拝者たちの小さな残りの民を持っておられました。これらの人々の中には価値ある魂がわずかにいて、神は彼らを通して偉大な働きをなさいました。ある人々は、中には深刻な過ちを犯したが後に悔い改めた人々もいましたが、信仰の英雄の中に挙げられています。使徒パウロは次のように記しました。

「このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまざったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、(この世は彼らの住む所ではなかった)、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているので、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない」(ヘブル 11:32-40)。

これらの英雄たちの有益な経験には、牧師、働き人、教会役員、そしてわたしたちすべての者のための教訓があります。

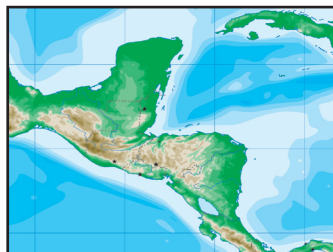
わたしたちの安息日学校の生徒がこれらの教訓を学んでいくときに、神が祝福してくださいように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ホンジュラスの伝道学校のために

「両親と教師の偉大な働きとは、品性建設—自分たちの保護の下におかれている人々のうちに、神のかたちを回復すべく努めること—である。科学の知識は、この偉大な目標からはずれるとき、無意味になる。しかし、あらゆる真の教育は、義なる品性の発達において助けとなる。品性の形成は生涯の働きであり、そしてそれは永遠のためである。」（両親、教師そして生徒への勧告 61）



「神のかたちに従って形成された品性こそ、現世から来世へ持っていくことのできる唯一の宝である。」（ユース・インストラクター 1899 年 8 月 17 日）

中央アメリカ連合は、アメリカ大陸の中央に位置する小さな諸国の教会員で成り立っている教会組織です。この連合は、教育分野に多大な労力を払ってきました。ここ数年間、教育の目標は、わたしたちの子供や青年を自分たち自身の学校で教えることでした。それは大変な働きですが、主は素晴らしい結果をもって祝福してくださいました。そして、多くの人々がわたしたちの教育の働きに触れ、福音のメッセージに関心を持っています。

わたしたちは命令が、教育せよ、教育せよ、教育せよ！であることを知っています。しかしながら、わたしたちの教育資金はこの働きを継続するほど十分にありません。このことを考えて心は非常に重荷を感じています。わたしたちはどうして自分の子供や青年に世の教育を受けさせ、失望させ、敵の策略の餌食にすることができるでしょう。わたしたちはこの働きを続けたいとの大きな願いがありますが、みなさんの助けが必要です。

このため、世界中の兄弟姉妹の皆さんにこの偉大な働きにおいてわたしたちを助けてくださるよう、お願いします。この第一安息日献金のとき、中央アメリカ連合総会の子供たちや青年たちを思い出してください。みなさんにあらかじめお礼を申し上げますと共に靈感の筆からの次のみ言葉を送ります。

「最高の意味において、教育の働きと贖いの働きは一つである—なぜなら、教育においても、贖いにおけると同様に、『すでにすえられている土台以外のものをすすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである』からである（コリント第一 3:11）。」（教会への勧告 202）

中央アメリカ連合総会からのみなさんの兄弟より

カナンにおけるイスラエル

「イスラエルはヨシュアの世にある日の間、また主がイスラエルのために行われたもろもろのことを知っていて、ヨシュアのあとに生き残った長老たちが世にある日の間、つねに主に仕えた。」(ヨシュア 24:31)

「イスラエル人は〔カナンの住民をすべて追い払うようにとの〕神のご命令に部分的にしか従わなかった。そして何世代にもわたって、彼らは偶像礼拝の諸国家の残りの者によって苦しめられた。」(サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 1 月 13 日)

参考文献：人類のあけぼの下巻 188-194

日曜日

3月30日

1. 新たにされ、それから忘れられた契約

- a. 自分の人生の終わりに、ヨシュアは、民が主に対して忠実であり続けるようにと、どのように勧告しましたか。そして彼らは彼の勧告に対してどのように応じましたか(ヨシュア 24:15, 16, 20-26)。

「神は、道徳的罪惡の潮流をとめ、世界じゅうが洪水になるのを防ぐ防壁として、神の民をカナンにおかれた。もし、イスラエルが忠実であったならば、神は、彼らが征服に征服を続けていくようにご計画になった。神は、カナン人よりも強大な国家を彼らの手に渡そうとしておられた。」(人類のあけぼの下巻 189)

- b. しかしながら、彼らはヨシュアの死後、何をしましたか(士師記 2:7, 8, 11, 12; 3:5-7)。

「カナンを占領した人々が、主の制限を無視したことが惡の種となり、その後、幾世代もの間、苦い果実を結び続けた。……イスラエル人は、自分たちの罪のために、神から離れた。神の力が彼らから去り、もはや、敵に勝てなくなった。こうして、彼らは、神によって征服するはずであったその国々に負けてしまったのである。」(同上 190, 191)

2. 「常に、残りの者が存在していた」

- a. 聖書は、教会歴史のこの時代の改革者のために、どの言葉を用いていますか。これらの神の民の改革の働きを描写するために、どの言葉が用いられていますか（士師記 2:16, 18）。
- b. 神の民が経験した背教の深さを描写しなさい（詩篇 78:58-62）。神はアブラハムへの契約の約束をおぼえて、ご自分の民を彼らの敵から救出するために、どのように働かれましたか（詩篇 78:65, 66）。
- c. どれほど多くの人が神から去ろうとも、わたしたちには真理が決して忠実な旗手のないまま放置されることはないというどのような保証がありますか（イザヤ 1:9; ローマ 11:1-5）。神は終わりの時代にも神の民を改革するための忠実な残りの民をお用いになることを、何が示唆していますか。（伝道の書 3:15）。

「主は、主の民を全くお見捨てになったのではなかった。常に、主に忠誠を尽くす残りの者が存在していた。主は、ときどき、忠実で勇敢な人々をお立てになって偶像礼拝をやめさせ、イスラエルを彼らの敵からお救いになった。」（人類のあけぼの下巻 191）

「この燭台の真中で動いておられる偉大なる頭は、決して教会なしにおられることはない。……もしわたしたちが主人のために光を輝かすことを拒むなら、……自分たちがなしてきて、かつなし得たはずでありながら、拒んだまさにその働きを、他の人々が行なうのである。」（ビュー・アンド・ヘルド 1897 年 6 月 7 日）

「大いなる光を持っていた多くの人々が、それを感謝せず、活用してこなかった。……彼らは実践において真理の原則を否定し、神のみ事業に恥辱をもたらす。キリストはこれらの人々をご自分の口から吐き出すと宣言しておられる。……主は自分たちの持っている光にしたがって歩んできた人々にご自分のメッセージをお与えになり、彼らを真実で忠実な者としてお認めになる。……これらの人々は、光と知識がありながら主の道に歩まず、自分自身の聖化されていない心の思いはかることに従って歩んできた人々に取って代わるのである。」（セレクト・メッセージ 3 巻 421, 422）

「教会の最大の危険の時に、教会のためのもっとも熱心な祈りが忠実な残りの民によって捧げられるのである。」（教会への証 5 巻 524）

3. 絶望の中からイスラエルが神に叫び求める

- a. 士師の時代の初期に、忠実な残りの民のうちから神がおこされた救出者を何人か挙げなさい (士師記 3:9, 15, 31; 4:4, 6)。これらの英雄たちの後、だれが圧迫者のくびきを砕くために召されましたか (士師記 6:11-14)。

「ギデオンに、人々を救えという神の召しを与えられた。……ギデオンは……イスラエルの状態を悲しく思い、どうしたなら人々から圧迫者のくびきを除くことができるだろうかと、思案していた。」(人類のあけぼの下巻 192)

- b. なぜギデオンは自分に語られるお方からしるしを求めたのですか (士師記 6:17-21)。

「ギデオンは、今自分に語っているおかたが、契約の天使で、昔イスラエルのために働かれたおかたであるという証拠を与えられることを望んだ。神の天使は、アブラハムと語り、あるときはとどまって彼のもてなしをお受けになった。そして、ギデオンは、今、天の使者に、とどまって彼の客となることを願ったのである。彼は、急いで天幕に行って、乏しい中からやぎの子と種入れぬパンの準備をして、それを持ってきて天使の前に置いた。すると、天使は、彼にこう命じた。『肉と種入れぬパンをとって、この岩の上に置き、それにあつものを注ぎなさい』(士師記 6:20)。ギデオンはその通りにした。すると、彼が求めたしるしを与えられた。天使は、手に持ったついで、肉と種入れぬパンに触れると、岩から火が燃え上がってさざげ物を焼き尽くした。そして、天使は、彼の視界から去って見えなくなった。」(同上 193)

- c. ギデオンが契約の御使としてのキリストに目を留め、自分の命そのもののために恐れたとき、どのような保証が彼をしずめましたか (士師記 6:22, 23)

「嵐の海の上で、誘惑を受けている弟子たちに、『わたしである。恐れることはない』と言われた憐れみ深い同じ救い主によって、これらの恵み深い言葉が語られた。二階の広間で悲しんでいる人々に現れ、同じ言葉を語られたお方が、ギデオンに『安心せよ』と語られたのであった。」(サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 6 月 23 日)

4. 最初の働き一家庭における改革

- a. ギデオンはイスラエルにおいて、どこから改革の働きを始めましたか(士師記 6:25, 27, 28)。

「ギデオンの父、ヨアシは、国の人々と一緒になって神にそむき、彼の住んでいたオフラに大きな祭壇をバアルのために築いていた。ギデオンは、この祭壇を破壊し、これまでささげ物がささげられていた岩の上に、主の祭壇を築くように命じられた。神に犠牲をささげることは祭司にゆだねられ、シロの祭壇に制限されていた。しかし、儀式礼典を制定なさったおかた、そして、そのすべてのささげ物が予表していたおかたは、その要求を変更する力がありであった。イスラエルの救済は、バアル礼拝に対する断固たる反対によって始められなければならなかった。ギデオンは、イスラエルの民の敵と戦う前に、偶像礼拝との宣戦を布告しなければならなかった。

神の命令は、忠実に行なわれた。ギデオンは、もしも公然と行なえば、反対に会うことがわかっていたのでひそかに事を運んだ。彼は、しもべたちの援助によって、一晩のうちにそれをやり遂げてしまった。」(人類のあけぼの下巻 193,194)

- b. 翌日、町の人々がバアルの祭壇が壊されているのを見たとき、彼らの反応はどのようなものでしたか(士師記 6:30)。
- c. 町の有力者であったヨアシは、どのように自分の息子を弁護して立ちましたか。また彼は群衆に何と言いましたか(士師記 6:31, 32)。

「次の朝、バアルを礼拝しようとして来たオフラの人々の怒りは、たいへんなものであった。ヨアシは、主の使の来訪を聞いていたが、もし彼が自分のむすこを弁護しなかったならば、人々はギデオンの命を取ったことであろう。ヨアシは言った。〔士師記 6:31 引用〕。もしバアルが自分の祭壇を守ることができなければ、どうして、彼を礼拝する者の保護を依頼することができようか。」(同上 194)

5. キリストの兵士には資質が必要とされている

- a. 十字架の兵士は、ギデオンからどの教訓を学ぶべきですか（ローマ 15:4; ペテロ 第一 3:15）。

「主はわたしたちのために大いなることをなしたいと望んでおられる。わたしたちは数によってではなく、イエスに魂を完全に明け渡すことによって勝利を得るのである。わたしたちはこのお方の力のうちに、イスラエルの力強い神に信頼して、前進しなければならない。……主は今、まったく同様に人間の努力を通して働き、弱い器を通して大いなることを成し遂げようとしておられる。真理の知的な知識を持つことは重要不可欠である。なぜなら、それなくして、いかに狡猾な敵に対抗できるであろうか。聖書は、ただ聖書が教える教理のためばかりでなく、その実際的な教訓のために研究しなければならない。あなたがたは決して驚いてはならない。武具をまともな扱いにはならない。いかなる危急のためにも、いかなる義務の召しのためにも準備していない。預言にしたしみ、キリストの教訓にしたしみ、真理を提示する一つ一つの機会を待ち、見張りなさい。しかし、よく準備された論拠に頼ってはならない。論拠だけでは十分ではない。ひざまずいて神を求めなければならない。あなたはこのお方の御霊の力と感化力を通して人々に会いに出て行かなければならない。

迅速に行動しなさい。神はあなたを、ギデオンの軍を構成していた人々のように、いつでも戦える兵士にしたいと望んでおられる。多くの場合、牧師たちはあまりにも緻密で、用意周到である。彼らが偉大な働きをなす準備ができるまでに、良い働きをするための機会は活用されずに行ってしまう。牧師たちはあたかも哀れな有限の人間である自分自身にすべての重荷がのしかかっているかのように行動するが、イエスが彼も彼の重荷も運んでくださるのである。兄弟たちよ、自分に信頼するのを少なくし、もっとイエスに信頼しなさい。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1003, 1004）

個人的な復習問題

1. ユダヤ人がカナンに確立したとき、ヨシュアの死後何が起こりましたか。
2. 真理が忠実な旗手なしに放置されることは決してないことについて、どのような保証がありますか。
3. ギデオンはイスラエルの改革の働きをどこから始めましたか。
4. ヨアシはどのようにして人々の怒りをしずめようとしてしましたか。
5. わたしたちはギデオンの良い働きから、どの教訓を学ぶべきですか。

ギデオン

「それはイスラエルの人、ヨアシの子ギデオンのつるぎにちがいない。神はミデアンとすべての軍勢を彼の手になたされるのだ。」(士師記 7:14)

「キリストの十字架の兵士になりたい人はみな、武具を身につけ、闘いのために準備しなければならない。彼らは脅かしにおびえたり、危険を恐れたりすべきでない。彼らは危険に用心しなければならないが、なお敵や神のための闘いをなすのに堅固で勇敢でなければならない。」(サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 6 月 30 日)

参考文献：人類のあけぼの下巻 194-202

日曜日

4月6日

1. 神に心から従いたいと思う人

- a. ミデアン人とアマレク人は、ギデオンがバアルの祭壇を破壊し、軍を形成しようとしていることがわかったとき、何をしましたか (士師記 6:33)。
- b. ギデオンは侵入者に対して闘いをなすために、主の助けを得て、何をしましたか (士師記 6:34, 35)。
- c. 主からのどの指示が、ギデオンの軍を 300 人にまで減らしましたか (士師記 7:2-7)。

「[ギデオン] は、自分の軍隊がまだ大きすぎるという宣告を聞いて、驚きに満たされた。しかし、主は、彼の民の心に誇りと不信仰があるのをごらんになった。……ミデアン人の大軍をながめて恐怖をいだいたものが多かった。それにもかかわらず、もし、イスラエルが勝利をおさめるならば、勝利を神に帰すかわりに、自分たちに栄光を帰してしまったことであろう。」(人類のあけぼの下巻 196)

2. 怠惰で放縱な人のための場所はない

- a. 3万2千人が試された方法から、わたしたちはどのような教訓を学ぶことができますか (マルコ 8:34)。今日、福音の働きのために男女を選ぶ際、わたしたちはどの重要な資質を求めるべきですか (ローマ 12:11)。

「主は、怠惰で放縱な人をご用にお用いになることはできない。主が選ばれる人は、自己の必要のために義務の遂行を遅らせたりしないわずかの人々である。三百人は、勇気と自制があるばかりか信仰の人であった。彼らは、偶像礼拝によってその身を汚していなかった。神は、彼らを導き、彼らによってイスラエルを救済することがおできであった。成功は、数によらない。神は、多数によると同様に、少数によっても救うことがおできである。神は、神に仕える者の数の大きさよりは、むしろ、彼らの品性によって、栄誉をお受けになる。」(人類のあけぼの下巻 197)

「わたしたちは完全な意味において伝道者という言葉どおりの伝道者を必要としている。すなわち利己的な考慮はわきへおき、神のみ事業を第一とする人、神の栄光だけに目を留めて働きながら、自ら戦う準備のできた兵士であり続け、このお方の命じられるところへはどこへでも行き、また真理の知識を広めるために、どのような能力でも働く用意のできた伝道者たちを必要としている。」(福音宣伝者 459)

- b. 自分の子供たちを有益な習慣のうちに訓練するという親に与えられた責任を考えると (箴言 22:6)、ユダの家に言われた言葉のうちにこだましているどの質問に両親は答えなければなりませんか (エレミヤ 13:20 下句)。

「子供に何の仕事も与えないでおくことによって、神から賜った責任をおろそかにすることほど、親にとって大きな罪はない。なぜなら、このような子供はすぐに怠け癖がつき、だらしのない無能な人間になってしまうからである。」(家庭の教育 115)

「神は、……不注意と怠惰のために有能で機敏な働き人になろうとしない人々を悲しまれる。主は、心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主を愛するようにお命じになる。これは、わたしたちの全能力をあげて、創造主を知って愛するようになるために、知能を力の限り発達させる責任がわたしたちに負わされたことを言っている。」(キリストの実物教訓 307,308)

3. ギデオンのためのつるぎ

- a. ギデオンが目前に迫ったミデアン人とアマレク人との対面を恐れて世を明かした後、主は彼を勇気づけるために、何と仰せになりましたか（士師記 7:9-11）。
- b. ギデオンは二人の敵の兵士から、何を耳にしましたか。またギデオンの反応はどのようなものでしたか（士師記 7:13-15）。

「ギデオンは、これらのミデアンの異国人を通じて彼にお語りになられる神のみ声を聞いたのである。ギデオンは、彼の指揮下にある少数の者のところへもどって言った。『立てよ、主はミデアンの軍勢をあなたがたの手にわたされる』（士師記 7:15）。」（人類のあけぼの下巻 197, 198）

- c. 神聖な啓示によって、彼に示唆された攻撃の計画を述べなさい（士師記 7:16-20）。この計画によって混乱に陥れられたとき、パニックになった軍勢は、何をしましたか（士師記 7:21, 22）。

「神の指導の下に攻撃計画が示され、〔ギデオン〕は、すぐにそれを実行に移した。彼は、三百人を三組に分けた。おのおのには、ラッパとつぼの中にかくしたたいまつが与えられた。兵士たちは、ミデアンの陣地をちがった方角から攻撃するように配置された。夜陰に乗じて、ギデオンのラッパを合図に、三組はラッパを吹き鳴らした。そしてつぼを打ち砕いて燃えさかるといまつを出し、『主のためのつるぎ、つるぎ』というときの声をあげて、敵に突進した（士師記 7:20）。

眠っていた軍隊は急に目をさました。どちらをむいても、燃えるたいまつのが火が見えた。各方面からラッパと敵のときの声が聞こえた。ミデアン人は、おびたけしい軍隊に取り囲まれたと思い込んで、あわてふためいた。彼らは、恐怖のあまり大声をあげて逃げ出し、味方を敵とまちがえて、同志打ちをした。勝利の知らせを聞いて家に帰らせられた幾千というイスラエルの人々がもどってきて、逃げる敵の追跡に参加した。」（人類のあけぼの下巻 198）

4. 内紛の前でのギデオン

- a. ギデオンの召集がイスラエルの部族へ届くや否や、そこから来た何千もの人々は、どうしましたか（士師記 7:23）。エフライムの人々は、ギデオンが自分たちを呼んだときに、どうしましたか（士師記 7:24, 25）。
- b. なぜエフライムの人々は怒ったのですか。ギデオンの謙遜で賢明な答えは、どのようにエフライムの理不尽な怒りを和らげましたか（士師記 8:1-3）。

「ねたみの精神は、とにかく、あおり立てられると争いを起こし、争闘と流血の原因になりやすい。しかし、ギデオンのけんそんな答えが、エフライムの男たちの怒りをしずめた。そして、彼らは心を和らげて家へ帰った。ギデオンは、原則に関しては堅く立って妥協せず、戦いに出ては、『大勇士』であったが、また、まれに見る思いやりの精神を表わした。」（人類のあけぼの下巻 201）

- c. 人は魂を勝ち取るのに成功する者となる前に、何を学ばなければなりません（箴言 15:1, 33; 25:15; コロサイ 4:6; ペテロ第一 3:15）。

「ミデアン人を倒すために、神がお選びになった指導者は、イスラエルの高い地位を占めた人ではなかった。彼は、つかさでも祭司でもレビ人でもなかった。彼は自らを父の家で最も小さい者だと思った。しかし、神は、彼が勇氣と誠実の人であることをごらんになった。彼は、自己にたよらず、主の指導に喜んで従った。神は、神の働きのために、必ずしも偉大な才能を持った人をお選びになるとはかぎらず、神が最もよく用いることができる人々をお選びになる。……自己の不十分さをよく自覚して、神を指導者とし、力の源として信頼する者を、神は、最も効果的にお用いになる。神は、彼らの弱さを神の力に結びつけて強くし、彼らの無知を神の知恵に結合して、彼らを賢くなさるのである。

もしも彼らが真のけんそんを持ち続けるならば、主は神の民のために、はるかに多くのことをなさることがおできになる。しかし、大きな責任または成功が与えられても、なお、自己過信に陥ることなく、自分たちが神に依存していることを忘れない者は、実に少ない。主が、神の働きをする器を選ぶに当たって、世の人々から、偉大でタラント（才能）があり、そうめいであるとほめそやされている人々を見過ごされるのは、そのためである。このような人々は、とにかく高慢で、自己過信に陥っているものである。彼らは、神の指示を仰がないで、行動することができると思っている。」（同上 199）

5. ギデオンの思いがために混乱した

- a. イスラエル軍がミデアン人とアマレク人に対してめざましい勝利を得た後、サタンはギデオンの思いを通して、どのようにイスラエルの民を墮落へと導くために働きましたか(士師記 8:24, 27)

「ギデオンは、主の使いが彼に現われた岩の上で犠牲をささげるように命令を受けたので、自分は祭司としての役目を果たすように任命を受けたものと考えた。彼は、神の許しを得ようとしなくて、適当な場所を備え、幕屋で行なわれている礼拝に似た制度を始めようとした。……彼のしたことは、イスラエルと同様に彼と、彼の家のわなとなった。この神の許しを得なかった礼拝は、ついに、多くの人々を主から離し、偶像に仕えるようにさせたのである。ギデオンが死んだあとで、多くの者がこの背信に加わり、その中には彼の家族の者もいた。人々は、かつて彼らの偶像礼拝をやめさせたことのあるその同じ人によって、神から引き離されていった。

自分たちの言行が、どんなに大きな影響を及ぼすものであるかを自覚する者は少ない。親の過失は、それを行なった者が墓に横たえられて後も長く子々孫々に至るまで、最も悲惨な実を結ぶ。人はだれでも他に感化を及ぼしていて、その感化の結果の責任を問われるのである。言葉と行為は非常な力を持っていて、この世のわれわれの生涯の影響を後世まで長く残す。われわれが、言葉と行為によって残す印象は、必ず、祝福となるかまたは、のろいとなってわれわれにもどってくる。」(人類のあけぼの下巻 202,203)

個人的な復習問題

1. 主に自分の軍隊を減らすように命じられたとき、ギデオンはなぜ驚いたのですか。
2. 現に存在している状況の下で、なぜそのような措置が必要だったのですか。
3. 主は夜明け前の早朝に、ギデオンに何と言われましたか。
4. ギデオンがエフライムの不当な怒りを和らげるためにあのような賢明な答えをなすことができるようにしたものは何でしたか。
5. 人は魂を勝ち取るのに成功する人となる前に、何を学ばなければなりませんか。

サムソン

「主の霊は……初めて（時折）彼〔サムソン〕を感動させた。」（士師記 13:25）

「サムソンを通して、神が『ペリシテびとの手からイスラエルを救い始める』という神のみ約束は成就した（士師記 13:5）。しかし、神への賛美また国家への栄光となりえたはずの生涯の記録はなんと暗く、恐るべきものであろう！」（闘争と勇気 132）

参考文献：人類のあけぼの下巻 208-218

日曜日

4月13日

1. イスラエルが再び抑圧の下に

- a. ギデオンとエフタの勝利の後、繁栄と平和の時代に、イスラエル人は何をしましたか（士師記 10:6, 7; 13:1）。
- b. 主はこうした事情の起こったあるとき、彼らが救出を求める二心の叫びに、どのようにお答えになりましたか（士師記 10:13, 14）。神は今日もご自分の民に同じことを仰せになるでしょうか。
- c. 罪と抑圧からの救出を得るために、改革の働きを支えるべく、かつての時代の神の民はどのようにすべきでしたか、また今日神の民はどのようにすべきですか（歴代志下 7:14）。

「神の民が、主の臨在を妨げていた罪を捨てたときに、神は彼らの祈りを聞き、すぐに彼らのために活動をお始めになった。」（人類のあけぼの下巻 206）

「わたしたちの最初の働きは罪を捨てることである。しかし、こうするためには、神の許へごく近く来なければならない。それによってこのお方のご品性とご要求を理解し、またこうして自分たちの罪深さと救い主の必要をはかることができるためである。」（ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 3 月 4 日）

2. 選ばれた救出者が囚人に

- a. ペリシテ人の抑圧からの救出を求めるイスラエルの祈りに、神はどのようにお答えになりましたか（士師記 13:24, 25）。

「〔イスラエルが救済されるという〕答えはすぐに与えられそうにもなく、年々、圧迫者の力は、国土に重くのしかかってくるのであったが、神は、摂理のうちに、彼らに援助を与える準備をしておられた。ペリシテ人の圧迫の初期に、この大敵の力をくじくために神が用いようとされた子がすでに生まれていた。」（人類のあけぼの下巻 208）

- b. 自分の使命に自らを捧げる代わりに、サムソンはどのようにしてサタンが自分を迷い出させ、闇の権力の囚人にすることを許しましたか（士師記 14:1-3）。

「サムソンが忠実に、彼の親と同じように神の命令に従ったならば、彼はもっと気高く、幸福な一生を送ったことであろう。しかし、偶像教徒との交わりが、彼を腐敗させた。ゾラの町は、ペリシテ人の国に近かったので、サムソンは、彼らと交わって仲よくなった。こうして、彼が若いときに結んだ親しい交わりが、彼の全生涯を暗くした。ペリシテ人の町テムナに住む若い婦人が、サムソンの心を捕えたので、サムソンは彼女を自分の妻にしようと決心した。

彼がちょうど成人し、神の任命を実行しなければならないとき、他のどんなときよりも神に忠誠を尽くすべきときに、サムソンは、イスラエルの敵と結合してしまった。彼は自分の選んだ者と結婚することによって、神に栄光を帰すことができるか、それとも、自分の生涯によって完成しようとしている目的を達成できない地位に自分をおいているのかどうかをよく問うてみなかった。神をまずあがめようと求めるすべての者に、神は知恵を約束なさった。しかし、自己を喜ばせようとする者には、なんの約束もない。

サムソンが歩んだのと同じ道をたどる者が、なんと多いことであろう。自分の好みに支配されて、夫や妻を選ぶために、神を信じる者と信じない者との結婚が、なんと多く行なわれていることであろう！」（人類のあけぼの下巻 211, 212）

- c. サムソンは自分自身の花嫁が自分を裏切ったことがわかって何をしましたか。彼が結婚式を離れた後、何が起こりましたか。サムソンの怒りが冷めたとき、何が起こりましたか（士師記 14:15-20; 15:1, 2）。

3. サムソンの光は闇となる

- a. 自分の妻が他の人に与えられたことを聞き、サムソンはペリシテ人に対してどのような厳しい仕返しをしましたか (士師記 15:4, 5)。
- b. サムソンはペリシテ人が自分の妻と彼女の父親を殺して報復したとき、それにどのように仕返しをしましたか (士師記 15:6-8)。

「サムソンは、ペリシテ人の麦畑やオリブ畑を焼きはらって仕返しをした。女が彼らにおどされてだましたことから騒動は起こったのであったが、彼らは怒って女を殺してしまった。サムソンは、すでに、単独で若いししを殺したり、アシケロンで三十人の男を殺したりして、その驚くべき力の証拠を示していた。ところが、サムソンは彼の妻が無残に殺されたのを怒って、ペリシテ人を撃ち、『大ぜい殺した』。……(士師記 15:8)。」(人類のあけぼの下巻 213)

- c. サムソンが改革の働きをするという自分の使命にふさわしくない品性を発達させた過程を述べなさい。彼の物語は、世の光となるために召されたある人々によって、どのようにしばしば繰り返されていますか。次の聖句と比較しなさい (マタイ 6:23; ガラテヤ 5:9; ヨハネ第一 2:11)。

「わたしたちは、自分を完全に神にささげる道を選ばないならば、暗闇の中にいるのである。少しでも保留するところがあれば、それはサタンが誘惑によってわたしたちを惑わそうと侵入してくる戸口を開いておくことである。わたしたちの視力をかすませて、信仰の目で神を見ないようにすることができれば、罪への障壁がなくなることを、サタンは知っている。

罪深い欲望が心に満ちていることは、魂が惑わされていることを示している。その欲望にふけるごとに、魂は神をきらうようになる。わたしたちは、サタンの選んだ道を歩くなら、悪の影にとり囲まれ、一歩進むごとに暗さは増して、心の盲目はつのるばかりである。……

いつまでも悪を心に抱き、神の愛の訴えをあえて無視するならば、罪びとは、善を愛する心と、神を慕う心と、天の光を受ける能力そのものさえも失ってしまうのである。あわれみの招待は今なお愛にあふれ、光はその魂をはじめて照らした時と同じく輝いているのに、み声はその耳にはいらず、み光は目に見えないのである。」(祝福の山 113, 114)

4. 「ペリシテびとは彼を捕えた」

- a. サムソンを通してイスラエルを救出するという神のご目的にもかかわらず、どの行為がイスラエル人の霊的な墮落を示していましたか (士師記 15:10-13)。そのような状況が神の民のうちに存在するとき、多くの場合、だれが真っ先に責められるべき人ですか (イザヤ 3:12; マタイ 15:14)。

「責任のある地位に就き、一つのことを教えながら、別のことをする人々がいる。彼らは前面に立って自分の兄弟たちを非難するが、彼ら自身の品性は、神の御目に、彼らが批判し責める人々の品性よりも欠陥が多いのである。これらの人々は盲人を導く盲人の指導者であり、指導者たちも彼らに導かれる人々も、神のみ前に真の悔い改めと心からの告白がないかぎり、破滅してしまう。」(パトル・クリーク教会への特別な証 13)

- b. サムソンがイスラエルを 20 年治めた後 (士師記 15:20)、サタンは、どのようにしてサムソンをイスラエルの敵の奴隷にしましたか (士師記 16:1, 4-6, 16-20)。

「イスラエルの士師であり、勇士であった彼が、今は、力なく、盲目になり、獄屋につながれて、最もいやしい仕事をさせられるとは、なんという変わりようであろう。彼は、自分の聖なる任務の条件を少しずつ破っていったのである。神は、彼を長く忍耐なさった。しかし、彼が自分の秘密を明かすほどに罪の力に身をゆだねてしまったときに、主は、彼を去られたのである。」(人類のあけぼの下巻 216, 217)

- c. サムソンがどのようにして自分の目を (霊的な意味において、マタイ 5:28, 29) 制御すべきかを知らなかったために、神はペリシテ人が (字義的な意味において) どうすることを許されましたか (士師記 16:21)。

「サムソンは、ペリシテ人の見せ物となって、苦しみとはずかしめを受け、これまでになかったほどに、自己の弱さを知った。そして、彼は、苦難によって悔い改めるに至った。髪が伸びるにつれて、彼の力も徐々にもどってきた。しかし、敵は、彼をくさりにつながれた無力な囚人であると思って、恐怖を感じなかった。」(同上 217)

5. 信仰の英雄の中に

- a. なぜサムソンの名が信仰の英雄たちの中で述べられていると思いますか（ヘブル 11:32; 士師記 16:28-30）。
- b. すべてのクリスチャン、とくに直接主の奉仕に携わっている人々は、どの警告に注意を留めるべきですか（コリント第一 10:12）。

「神は、サムソンが召された働きを達成する準備が与えられるように、常に摂理的に、彼をお守りになった。彼の生涯のごく当初から、肉体的力、知的活力、道徳的純潔を養うためによい環境に囲まれていた。しかし、悪い友だちの感化によって、彼は、人間の唯一の保護であった神を手放し、悪の潮流に流された。義務の道を歩んでいて試練に会うならば、必ず神が守ってくださることを確信してよい。しかし、人間が、故意に誘惑の力に身をさらすときに、おそかれ早かれ倒れるのである。

神がご自分の器として、特別の働きのために用いようとなさるその人々を、サタンは全力を尽くして挫折させようとする。サタンは、われわれの弱点を攻撃し、品性の欠点を通じて、人間全体を支配しようとする。そしてサタンは、こういう欠点が人の心にいだかれているかぎり、自分の成功はまちがいないことを知っている。しかし、だれでも打ち負かされる必要はない。人間は、自分の弱い力で悪の力を征服するように、放任されていない。援助は手近にある。そして、だれでも真にそれを望む者には与えられる。」（人類のあけぼの下巻 218, 219）

個人的な復習問題

1. イスラエルにいる忠実な礼拝者たちが救出を嘆願したとき、神はだれをマノアの家族からおこされましたか。
2. 何がサムソンの記録された過ちの最初の一步でしたか。
3. サムソンはどれほどすぐに、多くの苦しみをもたらす信者と不信者の間の結婚が、大変な間違いであったことを悟りましたか。
4. サムソンが自分の光が闇になることを許してしまった段階を述べなさい。
5. どのようなみじめな状態の下でなお彼は悔い改めを見出しましたか。

エリとその息子たち

「さて、エリの子らは、よこしまな人々で、主を恐れなかった（知らなかった）。」（サムエル記上 2:12）

「エリは、家族の統治のための神の規則に従って家を治めなかった。」（サイズ・オブ・タイム 1888 年 4 月 6 日）

参考文献：人類のあけぼの下巻 230-236

日曜日

4月20日

1. 幼子サムエル

- a. エルカナとハンナに生まれた子供によって執り行われた、将来の重要な務めは何か（サムエル記上 1:20; 3:20; 7:15-17）。
- b. 神に対する自分の厳粛な誓いを果たすために、ハンナは息子が乳離れしたときに、どうしましたか（サムエル記上 1:24）。彼女は、大祭司エリになんと言いましたか（サムエル記上 1:26-28）。

「ハンナの祈りは、聞きとどけられた。彼女は、心から願い求めた賜物を受けたのである。彼女は子供を見て、サムエル（神に求めた）と名づけた。幼児が母親から離れられるほどになるやいなや、ハンナは、誓いを果たした。ハンナは、世の母親の持つ愛情の限りを尽くして、自分の子を愛した。日ごとにむすこの力が強くなり、子供らしい片言に耳を傾けるにつれて、彼女は、ますます深くサムエルを愛した。彼は、ハンナのひとり子であり天からの特別の賜物であった。しかし、彼女は、サムエルを神にささげた宝として受けた。そして、神ご自身のものを与え主なる神に返さず、留めておこうとはしなかった。……

エリは、イスラエルのこの女の信仰と献身に深く感動した。エリは、自分自身が子供を甘やかして育てた父親であったので、神の奉仕にささげるために、自分のひとり子と離れる母親の崇高な犠牲を見て、畏敬の念に打たれ恥ずかしく思うのであった。彼は、自分の利己的な愛を責められ、へりくだって、うやうやしく主の前に頭をたれて礼拝した。」（人類のあけぼの下巻 222, 223）

2. 大祭司に送られた警告

a. 幼子サムエルについて、聖書はなんと述べていますか（サムエル記上 2:26）。

「神はすべての人にこの世の生涯において品性を発達させる機会を与えてくださる。すべての人は神の偉大なご計画の中で自分に定められた場所を占めることができる。主はサムエルをごく幼少の時よりお受け入れになった。なぜなら、彼の心が純潔で、彼には神への敬神の念があったからである。彼は献身した供え物であり、神に捧げられた。主は彼を少年時代にさえ、光の通路となさった。サムエルのように献身した生涯は、神の御目に偉大な価値がある。もし今日の青年たちが自らをサムエルのように捧げるならば、主は彼らをお受け入れになり、ご自分のみ働きの中で彼らをお用いになるのである。」(SDA パイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1010)

b. エリの教育的な感化力は、サムエルにどのように益となりましたか。今の時代の青年たちは、サムエルの模範からどの教訓を学ぶべきですか。

「サムエルは、エリの指導のもとにおかれた。そして、サムエルの美しい品性にひかれて、年老いた祭司は、非常に彼をかわいがった。サムエルは、親切、寛大、従順、ていねいであった。エリは、自分の子供たちのわがままに心を痛めていたが、サムエルが彼にゆだねられてから、休息と慰めと祝福とが与えられた。サムエルは、よく手助けをし、愛情がこまやかであった。そして、エリはこの地上のどの父親よりも優しくサムエルを愛した。国家の政治をつかさどる者とほんの少年との間に、このような暖かい愛情が通い合うとは、不思議なことであった。エリが老齢のためにだんだん衰弱してくると、彼自身のむすこたちの放縦な生活を憂えて苦しむのであったが、彼は、サムエルに慰めを求めた。」(人類のあけぼの下巻 226, 228)

c. 大祭司エリが自分の息子たちの行状を憂えていた間、主は預言者を通して彼にどの警告を送られましたか。またどのしるしによって、それが確認されましたか（サムエル記上 2:27-30, 34）。

「彼は、罪を責めず、罪人を正当に罰しなかったために、神の怒りをこうむった。イスラエルを純潔に保つために、彼に信頼することはできなくなった。」(同上 234)

3. 墮落した祭司たちの背信とその結果

- a. 大祭司にして国家の最高裁判官であったエリの自分の息子たちの教育における失敗を述べなさい (サムエル記上 2:12, 17, 22)。

「イスラエルの祭司であり、裁判官である者は、神がおゆだねになった子供たちを制し、治める義務について、無知であったわけではなかった。……

しかし、エリは、子供たちのするがままになっていた。父親は、子供たちの家来であった。犯罪ののろいは、彼のむすこたちの行為にあらわれた腐敗と悪に明らかに見られた。」(人類のあけぼの下巻 230, 231)

- b. 大祭司のやさしい勧告は、彼の邪悪な息子たちに、どのような効果を及ぼしましたか (サムエル記上 22:23-25)。

「[エリの息子たち] は、その職務に全然適していなかったけれども、祭司の地位を占めて、聖所で神の前の奉仕をしていた。……

これらの不忠実な祭司たちは、また、彼らの悪徳と墮落した行為によって、神の戒めを破り、彼らの聖職を汚した。それでも、なお、彼らはそこにいて、神の幕屋を汚し続けた。ホフニとピネハスの悪行に怒った多くの人人は、礼拝の場所に来なくなつた。こうして、神がお定めになった務めは、悪人の罪と関連があつたために軽んじられ、おろそかにされた。それと共に、悪の傾向をもった者は、大胆に罪に走つた。不信心、不品行、偶像礼拝すらが、恐ろしく広く行なわれた。」(同上 231, 232)

- c. イスラエルにおける背信は周りの国々にどのような影響を及ぼしたでしょうか。わたしたちの矛盾した告白は、隣人にどのように影響するでしょうか。

「イスラエルのなかで悪が公然と行なわれるのを知っていた周りの国々の民も、さらに大胆に偶像礼拝を行ない、犯罪を続けた。彼らは、もし、イスラエルの人々が忠誠を尽くしていたならば感じたはずの罪の意識を、自分たちの罪に対して持たなかった。」(同上 241)

4. サムエル：神の代弁者

- a. 神はエリやその息子たちと通信なさることがおできにならなかったのも、大祭司の家に最後の譴責のメッセージを伝えるために、だれを召されましたか（サムエル記上 3:2-4）。
- b. 大祭司が呼んでいると思って、サムエルはどうしましたか（サムエル記上 3:5, 6）。主がサムエルを三度目に呼ばれたとき、エリは少年にどのように言いましたか（サムエル記上 3:8, 9）。

「エリは、その不思議な呼び声が、神の声であることを確信した。主は、ご自分が選ばれた白髪のしもべをさしおいて、幼児に語られた。このこと自体がエリとエリの家に対してはつらいことであつたが、当然の譴責であつた。」（人類のあけぼの下巻 239, 240）

- c. 主は年老いた大祭司に何を伝えるようサムエルに託されましたか（サムエル記上 3:11-14）。エリは、サムエルが黙っていないよう、どのように説得しましたか。そしてエリの答えは何でしたか（サムエル記上 3:16-18）。

「むすこたちへのエリの譴責のなかに、厳粛で恐るべき言葉がある。その言葉は、清いもののために奉仕するすべての者がよく考えなければならないものである。『もし人が人に対して罪を犯すならば、神（裁判官）が仲裁される（裁く）であろう。しかし人が主に対して罪を犯すならば、だれが、そのとりなしをすることができようか』。」（サムエル記上 2:25）。」（同上 238）

しかし、エリは、真の悔い改めの実を示さなかった。彼は、罪を告白したが、その罪を捨てなかった。主は、何年も刑罰をくだすことを延ばされた。その間に、過去の失敗を償う多くのことができたのであつたが、年をとった祭司は、主の聖所を汚し、イスラエルの幾千という魂を滅びに陥れていた悪を正すために、効果的な手段を取らなかった。神の忍耐は、ホフニとピネハスの心をかたくなにし、さらに大胆に罪を犯させた。エリは、自分の家に与えられた警告と譴責の言葉を、全国に知らせた。彼は、こうした方法で、彼の過去の怠慢の悪影響をいくらかでも取り消そうと望んだ。しかし、祭司たちと同様に、人々も警告を無視した。」（同上 241）

5. 今日の教会のための教訓

- a. 邪悪な祭司たちホフニとピネハスは、どのように罰せられましたか。どのような惨事によって、神は国家全体を悔い改めへと召されましたか（サムエル記上 4:2, 14-18）。

「〔イスラエル〕国家に神の刑罰が下るときは、熟していた。それにもかかわらず、〔長老たち〕は、自分たちの罪がこの恐ろしい災いの原因であることを悟らなかった。」（同上 242）

- b. 教会は牧会のために人を承認するとき、どのように気をつけるべきですか（テモテ第一 3:5-7）。

「教会は、大いに信仰を告白していながら、キリストを公の恥辱にさらしている人々を扱うにあたり、神のために自分たちの熱心さを示さなければならない。彼らは真理を危険にさらしてきた。彼らは不忠実な歩哨であった。彼らは神のみ事業に非難と不名誉をもたらしてきた。教会からその純潔を汚してきた粘りつく汚辱と腐敗を取り除くための熱心かつ強力な努力をなすべき時が来ている。」（牧師への証 450）

「道德の標準が、神の民の間で十分に高く掲げられていない。……神聖な職務で牧師として立っている人々は、傷のない評判の人であるべきである。……あやしむべきほど原則を捨て、道德の標準が下げられている。……もし神の律法の保管者であると公言している人々が、その律法の違反者となるならば、神の守りの保護は取り去られるのである。」（教会への証 5 巻 597-601）

個人的な復習問題

1. わたしたちの時代の青年たちは、サムエルの模範から、どの教訓を学ぶべきですか。
2. 自分の息子たちの教育におけるエリの失敗は何でしたか。
3. わたしたちの矛盾した告白は、隣人たちにどのような影響を及ぼしますか。
4. 神はどのような惨事を、国家全体の悔い改めに招くためにおいになりましたか。
5. 教会は牧会に人を承認する際に、どのように気をつけるべきですか。

第一安息日献金 世界ミッションのために

親愛なる世界中の兄弟姉妹の皆さん：

わたしたちは地球の歴史の最後の瞬間に生存しており、主は長い間わたしたちを家に連れ帰ることを切望して待つてくれました。わたしたちの目の前で展開する預言的な事件は、イエスの再臨が近いこと、門口まで来ていることを告げています。残念ながら、福音のメッセージは世界の果てまで伝えられておらず、すべての被造物が真理を聞く機会を得てはいません。「人々はまもなく大きな決断に迫られることになる。そして彼らは自分たちの立場を知的に正しい側にとることができるために、聖書の真理を聞き、理解する機会を得なければならない」（伝道 25）。



神の教会の一員として、このお方のご品性を表し、この特別な働きに自分たちの時間、力、そして資金を委ねることにより世界の果てまで福音を広めることに参加することは、わたしたちの特権です。

教会員や友人たちの祈りや資金的な貢献のおかげで、多くのミッションが多くの地域に設立されています。これらの新しいミッションはなお地歩を固め、自立できるまでわたしたちの援助が必要であり、一方新しいフィールドも開かれています。毎年、わたしたちは地球の多くの地域にわたりメッセージを広めるのに必要な資金を供給するための特別献金を集めています。

「主の嗣業はあやしむべきほどになおざりにされてきた。そして神はご自分の民をそのことのために裁かれるのである。誇りと見せびらかしを愛する心が、積み上げられた優位性によって満足させられている一方では、新しい伝道地が未着手のまま放置されている。神の譴責は、ご自分の資金の不公平な分配や利己的な横領のゆえに管理者たちの上にある。」（教会への証 8 巻 59）

皆さんは、地が神の栄光で満たされ、イエスがまもなく来臨なさることができるよう、自分の資金を惜しみなく捧げることによって、ご自分の努力を伝道者やその家族の努力に結合させることを選びますか。そうなさると思います。

困窮している世界に代わって
世界総会伝道支部の皆さんの兄弟より

サムエルの時代に

「イスラエルのすべての人は、サムエルが主の預言者と定められたことを知った。」(サムエル記上 3:20)

「サムエルは、……イスラエルの神より三重、すなわち士師、預言者、そして祭司の職務を授かった。……〔彼は〕敬神的で、知的で、学問に励む青年たちの群れを集めた。彼らは預言者の子と呼ばれた。」(サイヌ・オブ・タイムズ 1882 年 6 月 22 日)

参考文献：人類のあけぼの下巻 253-269

日曜日

4月27日

1. サムエルは改革を訴える

- a. イスラエル人がなお国家として世俗と偶像礼拝の状態にあるときに、サムエルは彼らにどのような訴えをなしましたか (サムエル記上 7:3)。
- b. 彼の訴えの結果は何でしたか (サムエル記上 7:4-6)。
- c. ペリシテ人は、イスラエル人がミツパに集まっていることを聞いたとき、何をしましたか (サムエル記上 7:7-9)。主は彼らの本物の悔い改めに答えて、どのようにご自分の民を助けてくださいましたか (サムエル記上 7:10-13)。

「そのとき、火と煙と雷鳴の中で、シナイに降りて来られた偉大な神、紅海を分け、イスラエルの人々のために、ヨルダン川の中に道を開かれた偉大なおかたが、ふたたび、彼の力をあらわされた。攻撃軍の上に恐ろしい暴風が起こった。そして、強力な戦士たちの死体が地上に乱れ散った。

イスラエルの人々は、希望と恐怖に震えて、黙って恐れながら立っていた。彼らは敵が殺されたのを見たときに、神が彼らの悔い改めをお受け入れになったことを知った。」(人類のあけぼの下巻 251, 252)

2. 預言者の学校

- a. どのように真の教育の必要に、イスラエル人の注意が向けられましたか(申命記 6:6, 7; 詩篇 119:130)。

「教育の真の目的は、魂のうちに神のみかたちを回復することである。最初に、神は、ご自分のかたちにかたどって人を創造された。……罪は、人間の中の神のかたちを、ほとんど消し去った。これを回復するために、救いの計画がたてられ、人間に猶予の期間が与えられた。最初に創造されたときの完全な状態に、人間を回復することが、人生の大目的であってその他のすべてのものの根底に流れる目的である。」(人類のあけぼの下巻 258)

- b. サムエルは、何の目的のために、預言者の学校を設立しましたか(マラキ 2:7)。

「預言者の学校は、腐敗が広がるのを防ぐ防壁としてサムエルが創立したもので、青年の道徳的、霊的幸福に貢献し、指導者や助言者として、神をおそれて行動する資格のある人物を養成して、国家の将来の繁栄に資するためであった。……

こういう学校は、サムエルの時代に二つあって、一つは、預言者の故郷のラマにあり、もう一つは、そのとき箱が置かれていたキリアテ・ヤリムにあった。その後、ほかにも学校が設立された。」(同上 255)

- c. これらの学校で研究する主要科目は何でしたか(申命記 6:21-25; 詩篇 19:7-11; 71:22)。

「学校の主要科目は、神の律法とモーセに与えられた教訓、神の民の歴史、聖楽、詩歌などであった。……昔の預言者の学校では、神のみことろと神に対する人間の義務を学ぶことが、すべての研究の大目的であった。……偉大な真理が型によって明らかに示され、その全制度の中心目的が、世の罪を取り除く神の小羊であることを、彼らは信仰によって悟ったのである。」(同上 256)

3. 親の感化力の教育的な影響

- a. 良きにつけ悪しきにつけ、子供が親に感化されることを、神の律法はどのように説明していますか（出エジプト記 20:5, 6）。

「真理を他人に与えたいと思えば自らその原則を実行しなければならない。正直で高潔でそして無私の生活の中に、自ら神のご品性を反映するときに初めて他人を感化することができるのである。

真の教育は受け入れる準備のできていない頭に、また受け入れる力もない頭に、教えを強制することではない。知力がめざめさせられ、興味がよび起こされなければならない。このために、神の教授法が与えられている。人の頭脳をつくり、その法則を定められた神は、その法則に従って頭脳が発達するように考慮された。……神は、イスラエル人に教訓をあたえて神の原則を例示し、そのくすしきみわざの記憶を保つようにされた。したがって、質問がなされるときに、これに応じて与えられる教えは、人々の心と頭に刻みこまれた。」（教育 34, 35）

- b. 旧約でも新約でも、だれが母親として自分の娘たちに好ましい感化力を及ぼすことに失敗した人物として際立っていますか（ルカ 17:32）。

「ロトの妻は利己的で、宗教心のない女であった。」（人類のあけぼの上巻 185）

「彼女のからだは平原に来ていたが、彼女の心はソドムに執着していて、それとともに滅びた。彼女は、持ち物や子供たちまでが神の刑罰にのまれてしまうので、神に反逆の精神をいだいた。」（同上 171）

- c. なぜ「[アカン]の持ち物をことごとく」、その子供も含めて、アカンと共に滅ぼされたのですか（ヨシュア 7:15, 20, 21, 25）。

「[アカンの家の者]は、神の律法の偉大な指示に従う教育と訓練を受けていなかった……。アカンの親は、主の言葉に従うも従わないも自由であると思うように、息子を教育してしまった。アカンはこうして自分の生涯に教え込まれたものを、自分の子供たちにも教え、その結果、子供たちも墮落したのである。こうして家の者たちは互いに影響し合った。アカン自身と彼の家族にくだった刑罰は、みんなが罪にまきこまれたことを示している。」（家庭の教育 240, 241）

4. イスラエル人が王を要求する

- a. 国家を治める王を持つという自分たちの計画を支持するために、イスラエル人はどのような口実を用いましたか（サムエル記上 8:4, 5）。

「人々の間で行なわれた悪事の数々は、サムエルに知らされなかった。もし、むしろ人々の悪行が彼に知らされたならば、彼は、すぐに彼らを解任したことであろう。しかし、人々の望んだことは、それではなかった。サムエルは、彼らの真の動機が不満と自尊心であり、彼らの要求が、熟慮と断固とした決意のもとに行なわれたものであることを悟った。」（人類のあけぼの下巻 267）

- b. サムエルが主に民の嘆願について祈ったとき、主は彼に何と仰せになりましたか（サムエル記上 8:6, 7）。
- c. 民が主の訓告を受け入れなかったとき、彼らはサムエルに何と答えましたか。彼らの過ちは、彼らの神との関係にどのような影響を及ぼしましたか（サムエル記上 8:19, 22）。

「主は、イスラエルが王の統治を受けることを、預言者によって預言しておられた。しかし、この政治形態が最善であって、神のみこころにかなったものであるというわけではなかったのである。神は、人々が、神の勧告に従うことを拒んだために、彼らの選んだ通りにすることを許された。主は、怒りをもって彼らに王を与えたと、ホセアは言った（ホセア書 13:11 参照）。人々が神の勧告を求めず、または、神が啓示されたみこころに反して自分かつての道を選び、それに付随した苦い経験にあって、彼らが自分たちの愚かさを自覚して、罪を悔い改めるに至るために、神はしばしば彼らの願いを許される。……

こうして彼らは、自分たちが、神に依存していることを認めて、常に神に近づくのであった。彼らは、高められ高貴にされて、神の選民として召された大いなる運命にふさわしいものとされるのであった。ところが、人間が王座にすわるようになると、人心を神から引き離す傾向があった。彼らは神の力よりは、人間の力に頼るようになる。そして、王の犯す誤りは、彼らを罪に陥れ、国家を神から離反させるのであった。」（同上 268, 269）

5. 民が君主を要求する

- a. なぜイスラエルの子らは、彼らにとって、君主制が最高の統治形態だと信じたのですか（サムエル記上 8:19, 20）。何が本当の問題でしたか（申命記 1:30-32; サムエル記上 10:17-19）。

「〔イスラエルの人々の〕内部の紛争が、彼らを弱くした。彼らは、絶えず異邦の敵の侵入の危険にさらされていた。人々は、国家間における彼らの地位を保持するためには、部族を強力な中央政権のもとに統一する必要があると痛感するようになった。彼らは神の律法に従わなくなり、天の神の支配からのがれたいと望んだ。こうして、王を要求する声がイスラエル全土に広がった。」（人類のあけぼの下巻 266）

- b. 民は、どのようにベニヤミン人のサウルを、その就任前でさえイスラエルの王として歓呼して迎えましたか（サムエル記上 10:20-24）。
- c. なぜある人々は、とくにベニヤミンがもっとも小さい部族の一つであったために、サウルという選択に不満だったのですか（サムエル記上 10:27）。

個人的な復習問題

1. 教育の必要性に、どのようにイスラエル人の注意が向けられましたか。
2. なぜ神はサムエルが学校を設立することを奨励なさったのですか。
3. 良きにつけ悪しきにつけ、子供が親に感化されることを、神の律法はどのように説明していますか。
4. なぜロトの妻やその他の人々は、自分の子供たちに好ましい感化力を発揮することができなかったのですか。
5. 神はしばしば民がご自分の明らかにされたみ旨に反する自分自身の道に進むことを選ぶとき、どうなさいますか。

イスラエルの最初の王

「こうして民はみなギルガルへ行って、その所で主の前にサウルを王とし」（サムエル記上 11:15）

「預言者サムエルを通して、主はサウルにイスラエルの王として彼の一連の行動は厳密な誠実さのそれではなければならないとお命じになった。」（闘争と勇気 174）

参考文献：人類のあけぼの下巻 270-308

日曜日

5月4日

1. イスラエルの最初の王の就任

- a. サムエルは君主制を選ぶことをイスラエルの子らに対してはっきりと譴責しましたが、彼の演説の最後の言葉は何でしたか（サムエル記上 12:20, 25）。

「サムエルは、人々を失望した状態のまま、放任しておかなかった。このままでは、さらに向上した生活に対する彼らの努力をすべて妨げてしまったことであろう。」（人類のあけぼの下巻 282）

- b. 神はイスラエルの子らが君主制を選ぶことを喜んでおられませんでした（ホセア 13:11）、なぜ彼らの上に王を据えられたのですか（サムエル記上 12:13; エゼキエル 14:4）。どのような意味において、彼らは自分自身の罪によって盲目になっていましたか。

「イスラエルが最も繁栄した時代は、彼らが、主を彼らの王として認め、神が制定された律法と統治を、他のすべての国々の統治よりもすぐれたものとみなしたときであった。……しかし、ヘブル人は、神の律法に従わなかったために、神が望まれたような国民になることができなかった。そして、彼らは自分たち自身の罪と愚かさの結果として生じたすべての災いを、神の統治のせいにした。彼らは罪のために、全く目がくらんでしまったのである。」（同上 268）

2. イスラエルは伝道において失敗する

- a. モーセの時代より、選民の注意はくりかえし、どの約束された祝福に向けさせられましたか（申命記 7:6, 11, 14, 18）。

「神が今日ご自分の民を通して成し遂げようとしておられるご目的は、イスラエルをエジプトから連れ出されたときに彼らを通して成し遂げようと望んでおられたことと同じである。教会の中に表わされる神の慈しみ深さ、憐れみ、正義、そして愛を眺めることによって、世は神のご品性の描写を見なければならない。そして神の律法がこのように生活において具現化されるとき、世でさえ、神を愛し、畏れ、仕える人々に、地の他のすべての人々に勝った優位性を認めるのである。主はご自分の目をご自分の民の一人びとりに留めておられる。このお方は各人についてご自分のご計画を持っておられる。ご自分の聖なる規則を実践する人々が、区別された民となることが、このお方のご目的である。」（教会への証 6 巻 12）

- b. 士師の時代に、イスラエル人はどのように異邦人に伝道するのにふさわしくありませんでしたか（歴代志上 5:25）。

「イスラエルの父母たちは、神に対する義務をおろそかにし、子供らに対する義務にむとんちやくであつた。家庭内の不信仰と、外部の偶像礼拝に影響されて、イスラエルの大部分の青少年たちは、神が彼らのために計画された教育とは全然ちがつた教育をうけ、異教徒の道を学んだ。」（教育 40, 41）

- c. イスラエルの統治の形態が変わったとはいえ、サムエルは自分の時代の人々に、彼らが異邦人にとって光となるべきとの神のご目的について、どのように警告しましたか（サムエル記上 12:15）。

「イスラエル人のために、神の定められた規律と訓練は、彼らの生活をすべての点において他国民と異なったものとするはずであつた。この特殊性は、……彼らは快く受け入れなかった。」（同上 44, 45）

3. イスラエルが特別な国民であることをやめる

- a. イスラエル人が特別な国民となる特権をさげすんだことを、何が示していますか (サムエル記上 8:20)。

「神は、イスラエルの人々を、他のすべての国民から分離して、神ご自身の特別の宝とされたのであった。しかし、彼らは、この大きな栄誉を無視して、異教徒の風習を模倣することを切望した。そして、世俗の風習に従おうとする切望は、今なお神の民と自称する人々の間にもあるのである。彼らが主から離れると、世の利益と栄誉を熱望するようになる。」(人類のあけぼの下巻 270)

- b. 今日神の民はどのようにユダヤ人の過ちを繰り返すことに対して警告されていますか (ペテロ第一 2:9; コリント第二 6:17, 18)。

「クリスチャンは、この世の神の礼拝者の風習を常に模倣しようと努めている。世の人々と一致し、彼らの風習に従うことによって、神を信じない人々に強力な感化を及ぼすことができると力説する人々が多くいる。しかし、そうする者はみな、そのために、彼らの力の根源である神から離れる。世の友となれば、神の敵である。彼らは、地上の栄誉のために、暗やみから驚くべきみ光に招き入れてくださったかたのみわざを語り伝えるために神に召されたという、言葉では表現できない栄誉を犠牲にしまう (ペテロ第一 2:9 参照)。」(同上 270)

- c. 神の忠実な僕たちは、たえずどの危険に対して、自分たちの会衆に警告しますか (ヤコブ 4:4; ヨハネ第一 2:15, 16)。

「イエスは来られる。そしてこのお方は民が世に迎合しているのを見られるのであろうか。そしてこのお方はこれらの人々をご自分につけるご自分の精練された民としてお認めになるであろうか。そうではない。純潔にして聖なる者以外は、ご自分の者としてお認めになることはない。苦難を通して精練され、白くされ、そして自らを世に染まず分離してきた人々こそ、このお方はご自分のものとしてお認めになるのである。」(教会への証 1 巻 133)

4. サウルが試される

- a. イスラエル人が侵略してきたアンモン人と和平を求めたとき、何が起こりましたか（サムエル記上 11:1-4, 8, 11）。サウルはテストされたときに、主に信頼する代わりに、どの罪を犯しましたか（サムエル記上 13:5-13）。それにもかかわらず、神はどのようにイスラエル人を助けられましたか（サムエル記上 14:31）。

「サウルを試みる時が来た。ここで、彼は、神に信頼するかどうか、また神の命令に従って忍耐して待つかどうかを明らかにしなければならなかった。こうして、彼は、困難に直面した場合、神の民の指導者として、神の信頼を受けるに足る人物であることを示すか、それとも、動揺して、彼にゆだねられた聖なる責任を負う価値がないかを示すことになった。」（人類のあけぼの下巻 286）

- b. サウルはどのように二度目の僭越と、また自己称揚を表わしましたか（サムエル記上 14:24-29, 43-45）。

「彼は、〔サウル〕のむすこを犠牲にしてでも、王の権威を保つべきであるということ国民に印象づけようとした。……彼の命令の違反者があれば、その命令が不合理で、しかも、知らずに犯したものであっても、王であり父であるサウルは、王子の死を宣告したのである。人々は、その宣告の執行を拒否した。」（同上 293, 294）

- c. サウル王の過ちから、わたしたちは、特に牧師や働き人たちは、どの教訓を学ぶべきですか（マタイ 7:2）。

「すぐに自分の罪の言い訳をしたり、弁解をしたりする人は、他人をきびしくさばき非難する人でもある。多くの者は、サウルのように、神の不興を招くのであるが、勧告を拒み、譴責を軽べつする。主が彼らと共におられないことが明らかになっても、悩みの原因が、自分たち自身にあったことを認めようとしない。彼らは、高慢で自負心をいだいている。その反面、彼らは、彼らよりも善良な他の人々を残酷にさばき、きびしく譴責する。」（同上 294）

5. サウルが最終的に捨てられる

- a. もう一度試されたとき、サウルは自分にとって王の権威や誉れのほうが神のご命令への従順よりも重要であることをどのように示しましたか（サムエル記上 15:1-3, 7-9, 20, 21）。
- b. 神はなぜ、ついにサウル王を捨てなければならなかったのですか（サムエル記上 15:22-24）。

「神の言葉、または聖霊の譴責と警告を軽んじることは危険なことである。多くの者は、サウルのように誘惑に負けて目がくらみ、罪のほんとうの性質がわからなくなってしまう。彼らは、有意義な目標をめざしているという自負心をいだいていて、神の要求から離れても悪を行なったとは思っていない。こうして、彼らは恵み深い霊を軽んじて、ついにその声を聞くことができなくなって、自分たちの選んだ欺瞞の中に取り残されてしまう。」（人類のあけぼの下巻 308）

「サウルは、神を度外視して行動したときに、主は彼を指導することができなくなり、彼を捨てられたのである。」（同上 309）

- c. 神の御霊が王を去って後、サウルはどこに助けを見つけようとしたか（サムエル記上 16:14; 28:6, 7; イザヤ 8:19）。

「サウルは、反逆の道を歩んでいた間、いつもサタンにおだてられ、欺かれていた。」（同上 364）

個人的な復習問題

1. サムエルはサウルの戴冠式でイスラエルにどのような警告を与えましたか。
2. サムエルの死後、イスラエル人はどのように自分たちが異邦人に伝道するのにふさわしくないことを示しましたか。
3. イスラエル人はどのように特別な国民となる特権をさげすみましたか。
4. わたしたちは同様な危険に対して、どのように警告されていますか。
5. サウル王の過ちから、わたしたちはみなどの教訓を学ぶべきですか。

ダビデ王

「さて主はサムエルに言われた『……わたしは〔エッサイ〕の子たちのうちにひとりの王を捜し得たからである。』（サムエル記上 16:1)

「外面的な美しさは魂を神に推奨することはできない。品性とふるまいに表された知恵と卓越さが人の真の美しさを表現する。そしてわたしたちが万軍の主を受け入れられるかどうかを決めるのは、内なる価値、心の卓越さである。」（争闘と勇気 160)

参考文献：人類のあけぼの下巻 310-344

日曜日

5月11日

1. サウル王の宮廷におけるダビデ

- a. 捨てられたサウル王を他の者に替える必要があったときに、神はどの教訓をサムエルに教えたいと望まれましたか（サムエル記上 16:7 下句）。
- b. どの摂理的なできごとが、ダビデは自分の戴冠式に先立って宮廷での経験を得させましたか（サムエル記上 16:17-21）。神はなぜ彼にこの経験をお与えになったのですか。

「ダビデは琴をひくことが巧みであつたので、神の摂理によって王の前に召し出された。……〔ダビデ〕は、主の道を歩くように教えられていたが、ここで、これまで以上にもっと神のみこころを行なおうと決心した。彼は、新しい主題について考えていた。彼は、王の宮廷に出入りして、王の責任がどんなものであるかを悟った。彼は、サウルの魂を悩ます誘惑を見いだし、イスラエルの最初の王の性格と行状の秘密を見抜いた。……神は、ダビデに信頼という教訓を与えておられた。主は、モーセをその任務のために訓練されたように、エッサイのむすこに神の選民の指導者になる準備を与えておられた。」（人類のあけぼの下巻 316,317)

2. サウルのダビデに対する殺人的な計画

- a. 神はどのようにダビデを鼓舞し、イスラエルに対するゴリアテの挑戦に対応させられましたか（サムエル記上 17:23, 24, 37, 45-49）。今日、世に伝道するわたしたち自身の努力において、この経験から、何を学ぶことができますか。

「わたしたちの牧師は、挑んだり、議論を引き起こしたりすべきではない。……〔ある牧師たち〕は、イスラエルの神に信頼し、このお方を自分の力とした謙遜なダビデのようではなかった。彼らは自信と自慢のうちに出て行き、ゴリアテのように自らを大いなるものとし、イエスの背後に隠れなかった。……

若い説教者たちは、理論的なことと同様に、イエスの実践的な教えを研究し、イエスから学ぶべきである。こうしてこのお方の恵み、このお方の柔和、このお方のへりくだりと思いの低さを得ることができるためである。」（教会への証 3 巻 219, 220)

- b. サウルはいつ、どのようにして彼の品性の最大の弱点の一つを表わし始めましたか（サムエル記上 18:6-9）。

「まず第一に神を喜ばせようとせず、人間を喜ばせるために生活する人は安全ではない。サウルの野心は人間から最高の賛辞を受けることであった。そして、この賞賛の歌を聞いた王は、ダビデが人心を獲得し、彼に代わって王になるにちがいないと思い込んだ。」（人類のあけぼの下巻 325, 326)

- c. どのできごとが、サウルが今や悪霊に支配されていることを示しましたか（サムエル記上 19:11, 17; 20:27-31）。

「サウルは、しつと心をいだいた。そして、彼の魂は、それに毒された。……イスラエルの王は、無限の神のみこころに反逆していた。サウルは、イスラエル王国を統治したが、自分の心を治めるべきことを学んでいなかった。彼は、衝動のままに物事を判断し、烈火のように怒り狂った。彼は、感情を爆発させて、彼の意志に逆らう者を殺そうとするのであった。」（同上 326)

3. 逃亡者ダビデ

- a. 自分の命が危険にさらされていることを悟った後に、ダビデが逃れ場所として捜したさまざまな場所には、どこがありましたか（サムエル記上 21:1, 10; 22:1）。彼の恐れは正当化されましたか（サムエル記上 22:16–18, 20, 21）。彼はサウルを少しでも恐れるべきだったでしょうか（ヨハネ第一 4:18）。

「神の子供たちの失敗は、みな彼らの信仰の欠如が原因である。魂が暗黒におおわれ、光と指導が必要になったときには、見上げなければならない。暗黒のあなたに光がある。ダビデは、一瞬でも神に対する信頼を失ってはならなかった。」（人類のあけぼの下巻 336）

- b. 自分の義父、サウル王から逃げているときに、どの不正直な行動が、神の保護と信じるダビデの信仰の欠如を表しましたか（サムエル記上 21:2, 8, 13–15）。

「彼は、急いで果たさなければならない秘密の任命を王からゆだねられて来たと祭司に言った。ここで、彼は、神を信じる信仰に欠けていたことをあらわした。そして、彼の罪のために大祭司は死ななければならなくなかった。もしも彼が事実を明らかにしていたならば、アヒメレクは、自分の生命を保つために取るべき手段を知っていたことであろう。神は、どんな危機にあっても、神の民が真実であることを要求されるのである。」（同上 334）

- c. わたしたちは決して不必要に自らの身の上に迫害をもたらすべきではありませんが、どのようにわたしたち自身の時代にもダビデの経験がくりかえされることがあります（マタイ 10:22, 23）。そのようなとき、わたしたちはどの約束をわがものと主張することができますか（コリント第二 12:19）。

「義と罪、愛と憎悪、真理と誤謬（ごびゅう）の間には、押えがたい闘争がある。人がキリストの愛と聖潔の美しさを示すならば、彼はサタンの王国の臣下を引き離しているのである。だから悪の君はそれに抵抗して立ち上がる。キリストのみたまに満たされているすべての者には迫害と非難が待ちうけている。迫害の性質は時代によって変わるが、その本質—その根底を流れる精神—は、アベルの時以来、主の選民を殺してきたのと同じ精神である。」（祝福の山 36）

4. ダビデの寛容

- a. どのような方法で、ジフの地域の人々は、ダビデとその従者たちを裏切ることを申し出ましたか。彼らの計画をくじくために何が起こりましたか（サムエル記上 23:19, 20, 25-28）。
- b. サウルがペリシテ人を追い出してから、ダビデを追跡しに戻ったとき、ダビデはどのようにその寛容を表わしましたか（サムエル記上 24:1, 3, 4, 8, 10, 15）。サウルの反応はどうでしたか（サムエル記上 24:16-20）。

「〔サムエル記上 24:9-11 引用〕。サウルは、ダビデの言葉を聞いて非常に恥じ入り、その真実なことを認めないわけにいなかった。彼は、自分がつけねらっていた者の手中に完全に陥っていたことを認めて、深く心を動かされた。ダビデは、自分にはなんの罪もないという自覚をもって、王の前に立っていた。……

サタンの力に服した人々が、神のしもべたちに対していただく敵意が、時には、和解と好意の感情に変わることがある。しかし、この変化は長続きするとは限らない。悪い心を持った人々が、主のしもべたちに対して、悪いことを言ったり行なったりしたあとで、自分たちの誤りを深く悟ることがある。主の聖霊が彼らの心に働いた結果、彼らは、神と、彼らが敵対して戦った人々の前にへりくだり、彼らに対する行動を変更することがある。しかし、彼らが再び悪魔のささやきに耳を傾けると、以前の疑惑と敵意が再び頭をもたげ、悔い改めて、一時捨てていた同じ活動を再開する。」（人類のあけぼの下巻 344, 345）

- c. 今日、福音を宣布するときに、十字架の兵士たちはダビデの寛容からどの教訓を学ぶべきですか（ローマ 12:17-21）。

「人間の目には、神秘に思えても、神はそのご計画を完成なさる。人間には、神の方法は不可解である。そして、その外側を見て、神が彼らに起こることを許される困難や試練を、ただ彼らを苦しめ、滅ぼすものであると解釈する。」（同上 354）

5. 時機にかなった教訓

- a. サウルの命を二度目に助けた後、ダビデは引き続き、どのような落ち度を表わしましたか（サムエル記上 27:1）。

「ダビデの不信によって、神のみ栄えが汚された。ペリシテ人は、サウルと彼の軍勢を恐れる以上に、ダビデを恐れていた。ダビデは、ペリシテ人に身を寄せて保護を受けたために、彼の自国民の弱点を彼らに暴露した。……彼のこうした行動は、人々に彼の動機を誤解させる原因となり、多くの者は、彼に対して偏見をいだいた。彼は、サタンが彼にさせようと願っていたちょうどそのことをさせられた。なぜなら、彼がペリシテ人の中に隠れ家を求めたことによって、神と神の民との敵を非常に喜ばせたからである。ダビデは、神の礼拝を捨てたり、神のわざに対する献身を取り消したりしたのではなかった。しかし、彼は、自分の身の安全を求めて神に信頼しなかった。こうして、彼は、神がしもべたちに要求される公正で忠実な品性を傷つけたのである。」（人類のあけぼの下巻 355, 356）

- b. わたしたちは真理の敵となった人々の回復のために働くとき、どれほど忍耐強く、多くの時間をひざまずいて過ごしつつ、苦闘しなければなりませんか（ヘブル 12:3, 12-14）。

「であれば、わたしたちは誤っている人々を、自分たちには贖いの必要はないと他の人々に告げるようなやり方で取り扱うことがないように気をつけようではないか。あたかも自分たちには欠陥がないかのように、非難し、とがめ、やりこめたりすることのないようにしよう。修復し、癒し、回復するのが、キリストの働きである。」（天国で 291）

個人的な復習問題

1. ダビデをサウルの宮廷におかれた神のご計画を説明しなさい。
2. サウルの根本的な問題は何でしたか。また、わたしたちはどのようにそれを避けることができますか。
3. わたしたちがダビデの苦しんだ迫害を考えると、思い出すべきイエスの警告は何ですか。
4. ダビデはなぜエンゲデにおけるサウルの告白を信じなかったのですか。
5. 十字架の兵士たちは、ダビデの寛容から、どの教訓を学ぶべきですか。

ダビデの悔い改めと懲罰

「それを望まないなら、わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ。」(イザヤ 27:5)

「神の譴責の下で、告白と悔い改めをもって魂をへりくだらせる者はだれでも、ダビデのように、自分のために希望があることを確信できる。」(イエスのごとくなるために 383)

参考文献：人類のあけぼの下巻 431-454

日曜日

5月18日

1. 「あなたがその人です」

- a. 神はどのように、ダビデが大きな罪を犯した後に持っていた誤った平和の意識を突然妨げられましたか(サムエル記下 12:1-4)。それに答えてダビデは、どのような宣告を知らずに自分自身に下しましたか(サムエル記下 12:5, 6)。
- b. 預言者ナタンは、どのような率直な証をダビデに与えましたか。また、ダビデはどのように反応しましたか(サムエル記下 12:7-10, 13 上句；詩篇 51:4)。

「ダビデは、激しく良心に責められ、恥じ入るばかりであった。彼の忠実な家来たちは、彼の突然の不運を不思議に思ったけれども、それは王にとって、何の不思議でもなかった。彼は、こうしたことの起こる予感がときどきあったのである。彼は、神が彼の罪を長く忍び、彼が当然受けるべき報いを延ばされたのを怪しんだのである。……」

ダビデが墮落したことを引用して、自分の罪の申しわけをする悪者たちが多い。しかし、ダビデのような悔い改めとけんそんを表わすものがなんと少ないことであろう。彼が表わしたような忍耐と堅忍不拔の精神をもって譴責と刑罰とに耐える者は、なんと少ないことであろう。」(人類のあけぼの下巻 443, 444)

2. 苦々しい結果

- a. ダビデの人となりは自分の罪によって、どのように影響を受けましたか（詩篇 51:3, 17）。

「ダビデ自身にも大きな変化が起こった。ダビデは、彼の罪とその広範囲に及ぶ影響とを自覚して、心がくだかれた。彼は、国民の前で恥辱をこうむった。彼の感化力は弱まった。」（人類のあけぼの下巻 423, 424）

- b. ダビデは、自分の罪深いふるまいを通して、どのように人々の尊敬を、特別に自分の息子たちの尊敬を失いましたか（詩篇 27:6, 7）。直ちにどのような結果が続きましたか。またそれはなぜですか（サムエル記下 12:14）。

「しかし、彼の罪を知った国民は、さらにかって気ままに罪を行なうに至った。彼自身の家の中での彼の権威と、むすこたちに尊敬と服従を要求する彼の力とは弱まった。彼は、罪を責めるべきときにも、自己の罪悪感のために、沈黙を守った。これは、彼の腕を弱めて、彼の家の中で正義を行なうことを不可能にした。彼の悪行がむすこたちに影響を及ぼした。そして、神は、そうした結果が起こらないように介入することをされなかったのである。」（同上）

こうして、これは心を低くして、神が教えようとされた教訓を学ぼうと努める者たちに対する警告となったのである。」（同上）

「神と神の言葉が冒瀆された。人々は、神を信じようとせず、多くの者は、敬虔なよそおいの陰で大胆に罪を犯すようになったのである。」（人類のあけぼの上巻 423）

- c. なぜ神はダビデの墮落の物語が聖書の中に記されることをお許しになったのですか（コリント第一 10:12）。

「ダビデの例を引用して、自己の罪のとがを軽減しようと試みるものは、不真実な者の道は滅びであることを聖書から学ばなければならない。彼らも、ダビデのように悪の道から立ち直っても、罪の結果はこの世においてさえ、苦く耐えがたいものであることを知るであろう。

ダビデの生涯は、神に大いに祝福され、恵まれた者でさえも、自分は安全であると思ったり、目をさまして祈ることを怠ったりすべきでないことを警告するためのものであった。」（同上）

3. 反逆を通しての懲罰

- a. どのようにダビデの息子アブサロムは、アムノンが自分の妹に対して犯した犯罪に復讐しましたか（サムエル記下 13:28, 29）。アブサロムがダビデから逃げた三年後に、何が起こりましたか（サムエル記下 13:37-39; 14:23, 24, 28）。
- b. 自分の父親との外面的な和解の後、アブサロムはどのようにイスラエルの民の「心を自分のものとし」ましたか（サムエル記下 14:33; 15:1-6）。ダビデの側のどのような態度が、アブサロムの反逆の中心にありましたか（伝道の書 8:11）。

「アブサロムは、ヨアブを介して、もう一度父の前に出ることを許された。しかし、表面の和解は成立したように思われたものの、彼の野心的策動は続いた。彼は、戦車と馬、および自分の前に駆ける者五十人を備えて、自分が王であるかのようにふるまった。そして、王は、次第に人を避け、孤独を好むようになる一方においてアブサロムはなんとかして人心を獲得しようと努めた。

ダビデの無関心と決断の欠如は、彼の家来たちにも影響を及ぼし、裁判の執行はなおざりにされ、遅々としてはかどらなかった。アブサロムは、巧みに人々の不満を利用した。」（人類のあけぼの下巻 434, 435）

- c. アブサロムの斥候たちは、全イスラエルの部族にどのような指示を伝えましたか（サムエル記下 15:10）。ダビデがアブサロムの反逆の知らせを受けたとき、エルサレム内で流血をもたらすよりは、自分がどうすることを決めましたか（サムエル記下 15:13, 14）。

「ダビデは、反逆が王座のすぐそばから起こったのを見て驚いた。彼が愛し信頼していた王子が、彼の王位を奪い、彼の命をも取ろうとしていたことは疑いなかった。ダビデは、この大危機にあたって、これまで長く彼をおおっていた陰うつな気持ちを払いのけて、彼の若いときの精神をもって、この恐ろしい緊急事態に当面する準備をした。……彼は決心した。選ばれた都を、戦争の惨事に陥れてはならなかった。彼は、エルサレムを去ろうと思った。そして、人々に彼を支持する機会を与えて、彼らの忠誠をためそうと思った。」（同上 436, 437）

4. 反逆が鎮圧される

- a. ダビデとその群れが逃げている間、なぜ彼は多くの友人たちをエルサレムに送り返したのですか。

1. 契約の箱を担っていた人々 (サムエル記下 15:24, 25, 29)

「ケルビムの間に住まれる神は、エルサレムについて、『これは……わが安息所である』と言われたのである (詩篇 132:14)。祭司も王も、神の許しを得ないで、そこから神の臨在の象徴を移動させる権威はなかった。』 (人類のあけぼの下巻 438)

2. ホシャイ (サムエル記下 15:32-37)。何が彼の助言でしたか。それはなぜですか (サムエル記下 17:7, 14-16, 23)。

「ダビデは、この不幸の中で、もう一度自分自身の罪の結果を認めさせられた。最も有能で狡猾な政治家アヒトペルの離反は、ダビデが、彼の孫バテシバに悪を行なって家族をはずかしめたことに対する報復心から起こったものであった。……ホシャイは、ダビデの要請によって、エルサレムに帰り、アブサロムのために仕えることを申し出て、アヒトペルの狡猾な策略を破ろうとするのであった。」 (同上 440)

- b. ダビデは、自分をのろっている人を殺したいと望んだ自分の兵士たちに何と言いましたか (サムエル記下 16:9, 11, 12)。

「他人が苦難に会っているのを見て、喜び、あざけったり苦しめたりする精神は、サタンの精神である。」 (同上 441)

- c. さらに逃亡する機会があるときに、ダビデはどのように自分の部隊を二つに分けてましたか。また、彼らに自分の息子であるアブサロムについて、どのような指示を与えましたか (サムエル記下 17:24; 18:1, 2, 5)。

5. 近代のイスラエルのための新しい教訓

- a. 忠実な部隊と反逆軍の間の戦闘の結果は、何でしたか（サムエル記下 18:7, 8）。
- b. 反逆の先導者であったアブサロムの最後はどのようなものでしたか（サムエル記下 18:9-11, 14, 16, 17）。
- c. わたしたちはアブサロムの歴史から、今日のわたしたちの働きと伝道において、どのような教訓を学ぶことができますか（ローマ 15:4）。

「昔のイスラエルは、反抗的な不満者たちによって、くりかえし苦しめられた。……多くの場合、名声のある人々、イスラエルの統治者たちが、神のみ摂理的な導きに背を向け、かつては熱心に建ててきたものを取り壊すために猛烈に働き始めるのである。わたしたちは自分たちの経験において数多くこのようなことがくりかえされるのを見てきた。……教会はまだこれから悩みの時を見ることになる。荒布の中で預言するのである。しかし、異端と迫害に直面しなくても、また不信者と背教者と戦わなければならない、なお神の助けによって、教会はサタンの頭を砕くのである。主は鋼のように真実で、花崗岩のように堅固な信仰をもつ民をお持ちになる。」（教会への証 4 巻 594）

個人的な復習問題

1. 預言者ナタンがダビデ王に「あなたがその人です」と言ったとき、彼はどのような恥辱を王に対してもたしましたか。
2. ダビデは、自分の罪深いふるまいを通して、どのように民と、特に自分の息子たちの尊敬を失いましたか。
3. どのようにダビデ王の評判についての深刻な汚点が、ユダヤ・クリスチャン宗教に恥辱をもたしましたか。
4. 神はどのようなご目的で、ダビデの墮落の物語が聖書に記されることをお許しになったのですか。
5. どのような意味において、アブサロムの物語は教会の指導者、伝道者、そして信徒全般にとっての警告として記録されたのですか。

第一安息日献金

インド・アンドラプラデシのために

「アンドラプラデシはインドの 28 州のうちのひとつで、南東海岸沿いに位置している。面積としてはインド第四番目、人口としては第五番目の州である。」（ウィキペディアインターネット百科事典）



2008 年のある時、ビシャーカパトナムからのいくつかのグループが世界総会に、わたしたちが改革運動のメッセージを知り、研究したいと思っている旨を書き送りました。世界総会はわたしたちの関心をこの地域の責任ある兄弟たちに伝えました。まもなく、二人の牧師がわたしたちを訪ね、第三天使のメッセージの下でのリバイバルと改革について素晴らしいメッセージを伝えてくれました。この研究の結果、後に 16 人の魂がバプテスマを受け、地上の神の家族に加わりました。

真理を受けて、わたしたちは近隣の場所にいる魂たちにより知らせを広めるために危険を冒してきました。働きはそのとき以来、着実に進展しています。わたしたちは働きが聖霊の豊かな満たしによって完成されるまでは休みません。

距離の問題のゆえに、わたしたちのグループの一つは賃貸の場所で礼拝しており、他の二つのグループは個人宅で礼拝しています。主が今わたしたちを助けるために御手を伸ばしてくださったので、わたしたちは今のわたしたちの必要と共に将来の成長の可能性のために、礼拝所を建設する計画です。聖所の建物のために場所は購入しました。この時点で、わたしたちはモーセのように、世界中にいる兄弟姉妹がたにこの偉大な事業においてわたしたちと手を組んでくださるように訴えます。皆さんの祈りと資金的援助がなくては、この仕事を成し遂げることは、わたしたちに非常に難しいのです。

「一つの伝道地で働きをはじめめるために与えられるものは、結果として他の諸地域における働きを強めることになる。働き人たちが金銭的困難から解放されると、自分たちの努力を広げることができ、魂は真理に連れ来られ、教会が建てられる。資金力が増し加わる。まもなく、これらの教会は自分自身の境界の中での働きを実行していくことができるばかりではなく、他の伝道地にも与えることができるようになる。こうして地元の諸教会に負わされた重荷を分担するようになるのである。」（教会への証 6 巻 27）

親愛なる兄弟の皆さん、わたしたちの神に栄光を帰すために礼拝の場所を建てるという願いがかなえられるように、どうぞ助けの手を伸べて惜しみなく捧げてくださるようお願いいたします。皆さんの援助に先立ってお礼申し上げます。

アンドラプラデシの皆さんの兄弟姉妹より

ソロモン

「わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。後者にとっては、死から死に至らせるかおりであり、前者にとっては、いのちからいのちに至らせるかおりである。」(コリント第二 2:15, 16)

「われわれの影響が、死に至らせる死のかおりになるということは恐ろしいことであるが、その可能性が十分あるのである。ひとりの魂が道を誤り、永遠の祝福を失うという大きな損失を、いったいだれが推測することができようか。」(国と指導者上巻 60)

参考文献：預言の霊 1 巻 390-398

日曜日

5 月 25 日

1. 「主が知恵をお与えになる」

- a. ソロモンがイスラエルを治め始めたとき、神は彼に夢の中で何と言われましたか。またソロモンの求めたものは何でしたか (列王記上 3:5-9)。
- b. 主はソロモンの賢明な嘆願の後に、何を約束なさいましたか (列王記上 3:11-14; 箴言 2:6)。
- c. 主のぶどう畑にいるすべての働き人は、何を悟るべきですか (ヤコブ 1:5-7)。

「今日、責任を負わせられている者は、ソロモンの祈りが教える教訓を学ばなければならない。人の占める地位が高ければ高いほど、背負う責任も大きく、及ぼす影響の範囲も広くなり、神に依存する必要もそれだけ大きいのである。働き召しとともに、同胞の前で用心深く歩くという召しをも受けていることを、常に記憶していなければならない。彼は学ぶ者の態度で神の前に立たなければならない。」(国と指導者上巻 6)

2. すべて重荷を背負っている者は知恵を必要としている

- a. 聖書は真に重荷を背負っている者を、どのように述べていますか (マタイ 24:45-47; ヨハネ 21:15-17; 使徒行伝 20:28)。

「重荷を背負っている者が、富、権力、名声を求める以上に知恵を求めるならば、失望させられることはない。このような人は、ただ何をすべきかということだけでなく、どのような方法でそれを行って、神のみこころにかなうようにすべきかを、偉大な教師であられるイエスから学ぶのである。

神が識別力と才能をお与えになった人は、献身を維持している限り、高い地位に対する熱望をあらわしたり、支配したり監督したりしようと努めない。人は必要に迫られて責任を負わなければならない。しかし、真の指導者は最高の地位を求めようとはせず、善悪をわきまえる理解力が与えられることを祈り求めるのである。

指導者の立場に置かれた人々の道はやさしいものではない。しかし、彼らは困難に出会うごとに、それが祈りへの招きであることを認めなければならない。彼らは、あらゆる知恵の大いなる源であられる神のみこころを伺うことを怠ってはならない。彼らは、大いなる働き人であられる主の力と教えを受けて、悪の勢力に固く立ち向かい、善悪、正邪の区別をすることができるようになる。彼らは神がお認めになるものを認め、神のみ事業のなかに誤った原則がとりいれられることに極力反対するのである。」(国と指導者上巻 8)

- b. ソロモンの初期の統治について、何と記されていますか (列王記上 3:28; 4:29, 34)。

「神に対する献身、高潔さと原則に固く立つこと、神の命令には厳密に服従することなどが、長年にわたって、ソロモンの生涯の特色であった。彼はあらゆる重要な事業を指導し、王国に関係した取り引きを賢く処理した。彼の富と知恵、彼の治世の初期に建設された壮大な建物や公共事業、彼の言葉と行動に現れた活気、敬神深さ、正義、雅量などが、彼の国民の忠誠を得るとともに、多くの国々の王たちの称賛と尊敬とを勝ち得たのである。」(国と指導者上巻 9)

「だれよりもよく、これらの〔力や知恵や栄光の〕賜物が世に神の知識を与えることができるように授けられたものであることを知っていたのは、〔ソロモン〕であった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1905 年 12 月 7 日)

3. 天来の知恵をもって建てられた宮

a. ソロモン王の偉大な働きは何でしたか (列王記上 6:1, 7, 38)。

「ソロモンと彼の協力者たちが神と神の礼拝のために建てた広大な建物は、実に、美を極め、その華麗さは、ほかに比べるものがなかった。……神殿が建てられた〔モリヤの山の〕場所は、昔から神聖な場所とされていた。信仰の父アブラハムが、主の命令に従って、彼のひとり子を喜んで献げる精神をあらわしたのは、ここであった。神は、ここで、アブラハムに神の祝福の契約を更新された。それには、至高者のみ子の犠牲によって、人類が救済されるという輝かしいメシヤの約束が含まれていた (創世記 22:9, 16-18 参照)。また、ダビデが滅ぼす天使の復讐のつるぎをとどめるために、燔祭と酬恩祭を献げ、神がそれに天から火を下して答えられたのも、ここであった (歴代志上 21 参照)。そして、主の礼拝者たちは、もう一度ここで神のみ前に出て、神に対する彼らの忠誠の誓いを更新するのであった。」(国と指導者上巻 13, 14)

b. 壮麗な建造物が完成するや否や、何が宮の中に運び込まれましたか (歴代志下 5:1-5)。

c. 契約の箱を宮に運ぶのに伴った厳粛な儀式を描写しなさい (歴代志下 5:12, 13)。ソロモンの奉献の祈りを要約しなさい (列王記上 8:23-53)。

「ソロモンは、その台の上でひざまずき、すべての人々が聞いているところで、奉献の祈りをささげた。会衆が顔を地につけてひざまずいている時に、王は両手を天にあげて〔神への祈りのうちに〕嘆願した。」(国と指導者上巻 16)

「ソロモンが祈り終わったとき、『天から火が下って燔祭と犠牲を焼き、主の栄光が宮に満ちた』。『主の栄光が主の宮に満ちたので』、祭司たちは神殿にはいることができなかった。『イスラエルの人々はみな…主の栄光が宮に臨んだ』 (歴代志下 7:1, 2)。」(同上 20)

4. 誤用された知恵

- a. どのようにソロモンは晩年に、自分の知恵を誤用したことを嘆き悲しましたか（伝道の書 2:1-3, 7, 10, 15）。
- b. ソロモンの誤った道とは対照的に、キリストが進まれた道は何でしたか（マタイ 8:20; 使徒行伝 10:38）。わたしたちはキリストの働き方についての研究から、何を学ぶことができますか

「この時代の召しにこたえて、大いなる働き人であられる主の奉仕に加わったものは、彼の方法をよく研究するとよい。彼は旅の大通りににおいて発見する機会を大いに活用されたのである。

彼はあちらこちら旅をなさったその合間には、『自分の町』として知られていたカペナウムにお住みになった（マタイ 9:1）。そこはダマスコからエルサレム、またエジプト、地中海へと通じる道に位していたので、救い主の働きを中心としては好適地であった。多くの国々から来る人々がその町を通り、休息のために滞在した。そこで、イエスはあらゆる国、あらゆる階級の人々とお会いになった。こうして、彼の教えは他の国々と多くの家庭の人々に伝えられたのである。このような方法によって、メシヤを予告した預言に関する興味がわき起こり、救い主に人々の注意が向けられ、彼の任務が世界の前に示された。」（国と指導者上巻 47, 48）

- c. ソロモンは本心に立ち返ったとき、何と言いましたか（伝道の書 2:16-18）。わたしたちはソロモンの失敗からどの教訓を学ぶべきですか。

「われわれの当面する争闘は、自己犠牲の精神を働かせて、自己に頼らず、ただ神のみに依存すること、また、人々を救うためにあらゆる機会を賢明に活用することなどを要求している。神の教会が罪過の暗黒のなかにある世界に対して、キリストの自己犠牲の精神に飾られた聖なる美を示し、人間をあがめるのではなくて神をあがめ、福音の祝福を大いに必要としている人々に対して愛と不屈の奉仕をなしつつ、一致して前進するときに、彼らには主の祝福が伴うのである。」（国と指導者上巻 48, 49）

5. ソロモンの悔い改め

- a. 聖霊は、ついに、どのようにソロモンの眠っていた良心を目覚めさせましたか（列王記上 11:11, 12）。主の宣告は、彼にどのような影響を及ぼしましたか（伝道の書 2: 11, 13）。

「〔列王記上 11:11-28 引用〕。ソロモンは彼と彼の家に対するこの刑罰の宣告によって、夢からさめたかのように、本心に立ち返り、彼の愚行の真相を見始めた。彼は神の懲らしめを受け、精神も体も衰弱して疲れ果て、かわき切って、世の水がめから離れて、もう一度生命の源の水を飲むために帰ってきた。……彼は愚かな行為から離れることができなかったために、長い間、永遠の滅びの恐怖にさいなまれていた。しかし、彼は今、彼に与えられた言葉のなかに希望の光を認めたのである。」（国と指導者上巻 52）

- b. 彼が晩年に書き記したものの中で、特に青年たちに、どの危険に対して警告することに大いに心を用いましたか（伝道の書 11:9; 12:13, 14）。

「争闘の終結に至るまで神から離反する人々があるものである。サタンはわれわれが神の力に保護されているのでなければ、巧みに環境を利用して、知らず知らずのうちに魂の防備を弱めてしまうのである。われわれは一步進むごとに、「これは、主の道であろうか」と尋ねてみなければならない。生命のある限り、断固とした目的をもって、愛情と情欲とを守らなければならない。われわれが神により頼み、いのちがキリストとともに隠されているのでなければ、一瞬でも安全ではあり得ないのである。目をさまして祈ることが純潔を保つための安全策である。」（同上 58）

個人的な復習問題

1. 主のぶどう畑にいるすべての働き人は、ソロモンの求めたことから、どの教訓を学ぶべきですか。
2. 聖書は、真に重荷を背負っている人を、どのように描写していますか。
3. ソロモンは晩年に、どのように自分の知恵を誤用したことを嘆き悲しみましたか。
4. ソロモンは本心に立ち返ったときに、何と言いましたか。
5. ソロモンは、特に青年たちに、どの危険に対して警告することに大いに心を用いましたか。

嘆かわしい過ちからの教訓

「こうしてイスラエルはダビデの家にそむいて今日に至った。」(歴代志下 10:19)

「靈感の筆は、ソロモンの後継者をエホバへの忠誠のために強い感化力を働かせることに失敗した者として悲しい記録をたどっている。」(闘争と勇気 201)

参照文献：国と指導者上巻 61-71

日曜日

6月1日

1. レハベアム

- a. ソロモンの息子レハベアムが王となったとき、民は何を要求しましたか。そして彼は彼らに何と答えましたか (歴代志下 10:3-5)。
- b. レハベアムの仲間たちの助言は、より経験を積んだ人たちの勧告と、どのように違いましたか。どちらの助言に彼は従いましたか (歴代志下 10:6-14)。

「レハベアムは、至上権を行使できるということに心がおごって、王国の長老たちの勧告を無視して、青年たちを彼の助言者にすることに決めた。」(国と指導者上巻 63)

「シケムでの集会において、まさに彼の統治の最初に、レハベアムは国家の長として立つことのできる彼の能力に信頼を抱かせるような道を取ることもできた。もし彼が自分の臣民たちの幸福をいつも自分の前に保とうとする意欲を示したならば、民は彼を賢明な統治者として受け入れたことであろう。しかし、この機会の時に、原因から結果を判断することができずに、彼は民の大部分に対して自分の感化力を永久に弱めてしまった。」(ビュー・アソド・ヘラルド 1913 年 7 月 3 日)

2. 賢明でない決定

a. 彼の決定をもとに、あなたはレハベアムの品性をどのように描写しますか。

「ソロモンは神の預言者が預言した危機を賢明に乗り切るように、彼の選ばれた後継者、レハベアムの心を準備したいと望んだのであったが、その幼少期の訓練がはなはだしくおろそかにされた彼の息子の心に、善に対する強力な建設的影響を及ぼすことができなかった。……彼は神に仕えようと努力し、ある程度の繁栄が与えられたこともあった。しかし、彼は断固として立たなかった。彼はついに、幼少の時から彼をとりまいていた悪い影響に負けた。」(国と指導者上巻 62)

b. 愚かな王の頑固な態度に、民はどのように反応しましたか (歴代志下 10:16)。

「もしレハベアムと未経験な彼の助言者たちが、イスラエルに関する神のみこころを理解したならば、彼らは国家の行政に決定的改革を求める国民の要求を聞き入れたことであろう。しかし、シケムの集会においてやってきた好機に際して、彼らは、原因から結果を推論することをしなかった。こうして、彼らは多くの人々に対する彼らの影響力を永久に弱めてしまった。ソロモンの時代に始まった圧政を継続し、さらにそれを重くするという彼らの決意の表明は、イスラエルに対する神の計画とは正反対のものであった。そして、それは人々に彼らの動機の真実性を疑わせる十分な理由であった。王と彼が選んだ助言者たちは、この愚かで無慈悲な方法で権利を行使することにより、自分たちの地位と権威を誇ったのである。……

各部族の中にはソロモンの治世の圧政的政策に十分目ざめた人々が幾千とあった。そして彼らは、今や、ダビデの家に反逆するほかには道がないと考えた。」(同上 64)

c. レハベアムが自分の間違いを悟ったとき、どのように状況を回復しようとしたか。民の反応は何でしたか (列王記上 12:18)。

3. 分裂が起こる

- a. レハベアムは、ユダとベニヤミンのただ二つの部族だけが自分に忠誠を保ち、他の十部族は反逆したのを見て、どのような行動をとる準備をしましたか（歴代志下 11:1）。
- b. レハベアムを、もう一つの最初より悪い過ちから救うために、主は預言者を通して、どのようにレハベアムに語られましたか（歴代志下 11:2-4）。

「レハベアムは、三年の間、彼の治世の最初に起こった苦い経験から利益を得ようと努めた。彼のこの努力は、順調に進んだ。彼は、「ユダに防衛の町々を建てた」。「彼はその要害を堅固にし、これに軍長を置き、糧食と油とぶどう酒をたくわえ、……これを非常に強化し」た（歴代志下 11:5, 11, 12）。しかし、レハベアムの治世の初期におけるユダの繁栄の秘訣は、このような方策によったのではなかった。ユダとベニヤミンの部族を優位に立たせたのは、神を最高の支配者として認めたことであつた。」（国と指導者上巻 66）

- c. レハベアムは最終的に何をなし、イスラエルが世の光となることに失敗するという結果をもたらしましたか（歴代志下 12:1）。

「彼は生まれながら強情で、自己を過信し、わがままで、偶像礼拝を好んだのであつたが、もし彼が神に心から信頼したならば、強い品性と堅い信仰と神の要求に服従する精神を啓発させることができたのであつた。しかし、時が経過するにつれて、王は地位の権力と彼が建てた要害を頼りにするようになった。彼は、徐々に、生まれながらの弱点に負け、ついに、全く偶像礼拝の側に力を注ぐようになった。『レハベアムはその国が堅く立ち、強くなるに及んで、主のおきてを捨てた。イスラエルも皆彼にならつた』12:1」。

『イスラエルも皆彼にならつた』という言葉は、なんと悲しく、なんと深い意義を持っていることだろう。周囲の国々に対する光として神が選ばれた民が、力の根源から離れて、周囲の国々と同じようになろうとしていた。」（同上 67）

4. ヤラベアム

- a. 対抗者であるヤラベアムが十部族により王座についた後、彼は何を大いに恐れましたか。また、何をしましたか (列王記上 12:26-29)。

「ヤラベアムが何よりも恐れたことは、やがて将来において、国民の心が、ダビデの位を占める王の方に引かれていってしまうのではないかということであった。もし十部族が、昔ながらのユダ王国の首都をたびたび訪れることを許されるならば、宮では、ソロモンの時代と同様に礼拝が行われていたので、多くの者はエルサレムに首都をおく政府に忠誠をつくしたいと思うかも知れなかった。ヤラベアムは、助言者たちの勧告を受け入れて、彼の支配に対する反逆の可能性をできるだけ少なくするために、断固とした一撃を加えることにした。彼は、新しく形成された王国の国境内にベテルとダンの二か所に礼拝の中心を設けて、これを達成しようとした。十部族は、エルサレムではなくて、こうした場所に、神を礼拝するために招かれるのであった。」(国と指導者上巻 72, 73)

- b. ヤラベアムは二ヶ所の偶像礼拝の場所を設置した他に、何をしましたか (列王記上 12:31, 32)。

- c. 神はヤラベアムの挑戦的な態度を、どのように阻み、罰しましたか (列王記上 13:1-6)。

「主は、滅ぼすことではなくて、救おうと努めておられる。主は罪人を救うことを喜ばれる。『わたしは生きています。わたしは悪人の死を喜ばない』(エゼキエル書 33:11)。彼は警告と嘆願とによって、心のかたくなな人々が、彼らの悪い行いを離れて神に帰り、生きるように呼びかけておられる。神は、お選びになった使命者に、聖なる大胆さをお与えになる。それは、聞く人々が恐れを抱いて、悔い改めに至るためである。神の人は、なんと厳然と王を譴責したことであろう。そして、この確固不動の態度は必要であった。これ以外に、当時の罪惡を譴責する方法はなかった。主は、聞く者の心に忘れ得ない印象を与えるために、彼のしもべに大胆さをお与えになったのである。」(同上 76, 77)

5. 悪い感化力の危険

- a. わたしたちが世の光となるために召されたことを認めるとき、決して悪い感化力を与えることがないように、どれほど気をつけるべきですか（ヘブル 12:13; コリント第二 2:15, 16）。

「ソロモンと同様に、レハベアムの悪い模範の感化力も、多くの人々を神から離れさせた。悪にふける者は、今日においても、程度の差こそあれ、彼らと同じであって、悪行の影響は、それを行なった者だけにとどまらない。だれひとりとして、自分だけで生きていないのである。また、だれひとりとして、その罪のなかでひとりて死なない。どの人の生涯も、他の人々の道を明るく楽しいものにする光となるか、それとも、失望と破滅をもたらす暗いみじめな影響力となるのである。」（国と指導者上巻 67）

- b. 主はイスラエルにご自分がまだ彼らを愛し、許したいと願っておられることを、どのように保証なさいましたか（イザヤ 1:17-20; エレミヤ 3:11-13, 22）

「しかし、偶像礼拝に走った人々のかたくなさにもかかわらず、神は、彼らをあわれんで、分裂した王国が、全滅におちいらないように、全力をつくされた。そして、月日が経過し、サタンの勢力に動かされた人々の策略によって、イスラエルに対する神の計画が全く挫折したように思われたときにもなお、神は選民の捕囚と回復とによって、神の恵み深い計画をあらわされたのである。」（同上 69, 70）

個人的な復習問題

1. レハベアムの戴冠式の前に、部族の代表者たちは、新しい王から何を知りたかったのですか。
2. レハベアムが自分の父親の助言者であった経験のある人々から得た助言と、経験のない青年たちから得た助言を対比しなさい。
3. 王の答えに対して、民はどのように反応しましたか。また、なぜですか。
4. レハベアムは自分が無力な状態にいることを悟ったときに、何をしましたか。
5. わたしたちはレハベアムの過ちから何を学ぶべきですか。

アサ王

「アサはその神、主の目に良しと見え、また正しと見えることを行った。」(歴代志下 14:2)

「〔アサの〕軍隊は、敵よりも人数が少なかったにもかかわらず、自分が信頼をおいているお方への彼の信仰は弱まらなかった。」(闘争と勇気 203)

参考文献：国と指導者上巻 80-83

日曜日

6月8日

1. 試されたアサの信仰

- a. 聖書は、ソロモンの孫であるアサについて、何と述べていますか (歴代志下 14:2-5)。
- b. アサは、エチオピア人がユダを侵略していたテストの間、どのように自分の信仰を表しましたか (歴代志下 14:9-11)。彼の信仰はどのように報われましたか (歴代志下 14:12)。

「〔歴代志 14:9 引用〕。アサは、こうした危機において、彼が建てた石垣とやぐらと門と貫の木のあるユダの『要害の町』や、訓練された彼の軍勢の『大勇士』たちにも頼らなかった (同 14:6-8)。王は万軍の主によりたのんだ。主の名によって、驚くべき救いが、古代イスラエルのために行われたのである。……

アサの祈りは、すべてのキリスト者が祈るにふさわしい祈りである。われわれは、血肉に対してではなくて、もろもろの支配と、権威と天上にいる悪の霊に対して戦うのである (エペソ 6:12 参照)。われわれは、人生の戦いにおいて、正義に反抗する悪の勢力に立ち向かわなければならない。われわれの希望は人間ではなくて、生ける神にある。われわれは、神が、み名の栄光のために、神の全能の力を人間の器の努力に結びつけてくださることを、心から確信して期待することができる。われわれは、神の義の武具をまとして、すべての敵に勝利することができるのである。」(国と指導者上巻 81, 82)

2. 成功への唯一の道

- a. どのように預言者アザリヤは、アサにその勝利の源について思い起こさせましたか (歴代志下 15:1, 2, 7)。
- b. アサは、すでに進展していた改革をさらに進めるために必要であった事柄に、どのように応えましたか (歴代志下 15:8)。

「〔歴代志下 15:1, 2, 7 引用〕。アサはこれらの言葉を聞いて、大いに勇気づけられて、まもなく、ユダにおける第二の改革を始めた。」(国と指導者上巻 83)

- c. アサの時代を自分たちの時代と比較して、わたしたちはどの必要に気づくべきですか。またわたしたちは何を心から支持すべきですか (イザヤ 48:16-18)。

「サタンがいろいろの方法で、神の律法の要求に対して、人々の目をくらませているこの時代において、『われわれの神の命令 (戒め) に』、多くの人々をふるえおのかすことのできる人々が必要である (エズラ 10:3)。大いなる律法の与え主を罪人に指し示し、彼らに『主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ (改心させ)』ることを教える、真の改革者が必要である (詩篇 19:7)。聖書にくわしい人々、すべての言行において主の戒めを高める人々、信仰を強めようと努力する人々が必要である。人々の心に、聖書に対する崇敬の念と愛を起こさせる教師が、なんと多く必要なことであろう。

今日、罪悪が広く行き渡っているのは、主として聖書を研究して、それに従わなかったためであると言うことができる。神の言葉を破棄するときに、生まれながらの心の邪悪な欲情を抑制する、その力を否定する。人々は肉にまいて、肉から滅びを刈り取るのである。

聖書を破棄することから、神の律法に対する離反が生じた。人間は神の律法への服従から解放されたという教えは、道徳的義務感を薄弱にし、世界に罪悪の水門を開いた。不法、放蕩、腐敗が、圧倒的に洪水のように押し寄せている。」(同上 225)

3. 「彼らは契約を結び」

- a. 自分たちのかつての背信における経験を考慮し、民は特別な集会における厳粛な誓いによって、何を約束しましたか（歴代志下 15:12-15）。
- b. キリストに魂を勝ち取るわたしたちの努力ににおいて、アサがこの時に残した模範は、今日わたしたちにとって、どのように励ましとなりますか（歴代志下 15:9）。

「主を知ることを切に求めなさい。もしあなたがそうするなら、あなたは魂をキリストに勝ち取ることになる。自分自身の魂を救うばかりでなく、あなたの魂を改心させた力は、あなたが他の人々をキリストに勝ち取る模範を残すことができるようにする。」（ユース・インストラクター 1914 年 6 月 9 日）

- c. 外にいる正直な人々は、真理の救う力についてどのように確信させられますか。わたしたちの話を書くことによってですか、わたしたちを見ることによってですか（マタイ 5:16; テモテ第一 4:12, 16）。

「クリスチャン、すなわちキリストに似ていることを意味する名にふさわしい人は、敬神と純潔に、また神と神の遣わされたイエス・キリストへの愛と敬虔に満たされる。そして彼の精神、言葉、行動は、みな天の印章を帯びている。他の人々は彼がイエスと共にいて、イエスから学んだ者であることを認める。彼の祈りは単純かつ熱心であり、信仰という翼に乗って神のみ許へ上る。キリストの学校で学んだので、彼は自分自身について謙遜な意見を持っている。そして彼はこの世の財産には貧しいかもしれないが、神の御霊の恵みには富んでおり、その精神や感化力によって他の人々を祝福し、富ませることができる。なぜなら、キリストが彼のうちにおられて、永遠の命へ湧き上がる水の泉であられるからである。彼は自分のまわりに希望と勇氣と力の雰囲気をつくりだし、世俗的で、利己的で、形式的な公言者である者たち、また生きているのは名ばかりで死んでいる人々を辱めるのである。」（神のむすこ娘たち 85）

「世は、真理を信じる人々が高く聖なる原則に基づいて行動することによって真理を通して聖化されるのを見ることによってのみ、警告を受けることができる。」（SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 980）

4. アサの過ち

- a. 主と厳粛な契約を結んだ後、アサの信仰はどのように試されましたか。また彼はどのように失敗しましたか（歴代志下 16:7-9）。

「アサの忠実な奉仕の長い記録は、時折、彼が神に完全な信頼をおかなかったという誤りによって、損なわれた。ある時、イスラエルの王が、ユダ王国に侵入して、エルサレムからわずか五マイルのところにある要塞ラマを占領したときに、アサは、スリヤの王ベネハダデと同盟を結んで救いを求めた。」（国と指導者上巻 83）

- b. 困窮していた時に神に信頼しなかった自分の失敗を神の預言者によって譴責されたとき、アサはどのように二度目の過ちを犯しましたか（歴代志下 16:10）。

- c. なぜ聖書は、勝利と失敗、また神のみ働きに関わっていた男女の品性の好ましい特質と良くない特質の両方を述べているのですか（詩篇 39:4）。

「靈感の筆は、自分の働きに忠実に、ノア、ロト、モーセ、アブラハム、ダビデ、そしてソロモンを打ち負かした罪や、エリヤの強い霊が彼の恐るべき試練のときに誘惑の下に沈んだことさえも、わたしたちに告げている。ヨナの不従順、イスラエルの偶像礼拝が忠実に記録されている。ペテロがキリストを拒んだこと、パウロとバルナバの激論、預言者や使徒たちの失敗や弱さがみな、人間の心から幕を上げる聖霊によってあらわにされている。わたしたちの前に信徒たちの生活が、彼らのあらゆる欠点や愚かさと共にある。それは彼らに続くすべての世代にとって教訓となるように意図されている。もし彼らに弱点がなかったならば、彼らは人間以上のものであり、わたしたちの罪深い性質は、そのような卓越さの地点に到達することに絶望してしまうことであろう。しかし彼らがどこで苦闘し、倒れ、また元気を取り戻し、神の恵みを通して勝利したかを見て、わたしたちは励まされ、墮落した性質がわたしたちの道に置いた障害物を乗り越えるように導くのである。」（教会への証 4 巻 12）

5. 譴責を侮る危険

- a. アサの第二の過ちから、わたしたちはどの教訓を学ぶことができますか（箴言 10:17; 15:10）。

「自分の間違いを認めて、神の前に心を低くするかわりに、『アサはその先見者を怒って、獄屋に入れた。……』。」（国と指導者上巻 84）

「譴責を侮り、いつでもそれに対して反感を持つ男女がいるものである。自分たちの過ちを告げられるのは気持ちの良いものではない。ほとんどどんな場合でも、譴責が必要な時に、主の御霊が悲しみ、主のみ事業が非難されてきた事実をまったく看過（かんか）する人々がいる。これらの人々は譴責に値する人々に同情する。なぜなら、個人的な感情が傷つけられたからである。この聖化されていない同情はみな、同情者を譴責される人の罪にあずかる者とするのである。」（教会への証 3 巻 359）

「無限の力を持ち、恐ろしいさばきを行われる、われわれの創造主であり指揮者であられる神は、なんとかして人々に罪を認めさせ、悔い改めに至らせようとしておられる。神は、彼のしもべたちの口によって不服従の危険を予告される。神は警告を与えてはっきりと罪を譴責される。神の民は、神が選ばれた器の絶え間ない保護という神の恵みが与えられてこそ、繁栄を保つことができる。神は神の勧告を拒否し神の譴責を軽んじる人々を支え守ることはおできにならない。」（国と指導者下巻 46）

「主がわたしたちをその曲がった道から救うために与えてくださった警告のゆえに主に感謝しよう。」（神のむすこ娘たち 260）

個人的な復習問題

1. 危機に直面した時のアサの信仰から、わたしたちはどのように鼓舞されますか。
2. アサは主のメッセージを聞いた後、自分がとりかかった改革の働きをどのように進めましたか。
3. わたしたちの周りにいる人々が、どのように真理に導かれることができるか説明しなさい。
4. 正直な魂に真理の救う力について確信させる一つのことは何ですか。
5. わたしたちは最終的にアサが落ちこんだ落とし穴を、どのように避けることができますか。

ヒゼキヤ王

「しかしヒゼキヤはその受けた恵みに報いることをせず、その心が高ぶった」(歴代志下 32:25)

「展望はまったく暗かった。しかし、王はなおこれまで自分の『避け所また力、悩める時のいと近き助け』であられたお方に祈ることができた(詩篇 46:1)。」(闘争と勇気 240)

参考文献：国と指導者上巻 303-312

日曜日

6月15日

1. ヒゼキヤ王は奇跡を求めて祈る

a. ユダを治めたヒゼキヤの統治について、何と述べていますか(列王記下 18:1-3)。

「ヒゼキヤの栄えた治世に改革が起こったのである。ヒゼキヤは、北王国が陥っていた運命から、ユダを救おうと全力をつくす決意をもって王位についた。預言者たちの言葉は、中途半端な対策を奨励するものではなかった。最も決定的な改革によってのみ、切迫しつつあった刑罰を避けることができたのである。」(国と指導者上巻 296)

b. ヒゼキヤ王の栄えた治世の最中に何が起こりましたか(列王記下 20:1)。ヒゼキヤは落胆するような預言者のメッセージにどのように応じましたか(列王記下 20:2, 3)。

c. 預言者はヒゼキヤにどのようなメッセージを持ち帰りましたか(列王記下 20:4-6)。

「預言者イザヤは喜んで引き返して行って、確証と希望の言葉を伝えた。イザヤはいちじくのかたまりを病気の個所につけることを指示して、王に神のあわれみと保護のメッセージを伝えた。」(同上 305)

2. ヒゼキヤの奇跡的な祝福

- a. ヒゼキヤはメッセージが神からものであることを確かめたかったために、何を求めましたか (列王記下 20:8)。

「モーセがミデアンの地において、また、ギデオンが天の使者の前に出たとき、またエリシャが彼の主人の昇天する直前に求めたのと同様に、ヒゼキヤはこの使命が天からのものであるというしるしを見せてほしいと願った。……

日時計の影を十度退かせることは、ただ神の直接の介入によつてのみなし得ることであつた。そして、ヒゼキヤはこれを、主が彼の祈りを聞かれたしるしとして求めたのであつた。『そこで預言者イザヤが主に呼ばわると、アハズの日時計の上に進んだ日影を、十度退かせられた』(列王記下 20:11)。(国と指導者上巻 305)

- b. どの奇跡を通して、主はなおもご自分の僕にご自分の憐れみを示そうと望まれましたか (列王記下 20:7)。

「祈りによっていやされようと求めている者は与えられている治療法を用いるのを怠ってはならない。苦痛を和らげ、健康を回復する自然の働きを助けるために神が備えられた治療法を用いること、神と協力して回復に最も適する状態にすることは信仰の否定にはならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 209, 210)

- c. 神の憐れみを認めて、彼はどの歌を作りましたか (イザヤ 38:10-20)。

「ユダの王はいつもの力を回復したときに、主のあわれみを歌の言葉に表現して感謝した。そして余生を王の王に心から仕えることを誓ったのである。彼が神のあわれみ深い取り扱いに対して感謝をいい表したことは、創造者の栄光のために、自分たちの年月を費やそうと望んでいるすべての者に大きな励ましを与えているのである。」(国と指導者上巻 305)

3. ヒゼキヤの失敗

- a. ヒゼキヤはバビロンからの使者たちを迎えたときに、彼はどのような間違いを犯しましたか（列王記下 20:12, 13）。

「遠国の王からのこれらの使者たちの訪問は、生ける神を賛美する機会をヒゼキヤに与えたのである。彼がすべての造られたものを支えておられる神について語るとは、何と容易なことであつたことだろう。その神の恵みによって、全く絶望的であつた彼自身の生命が助けられたのである。カルデヤの平原から来たこれらの真理の探究者たちが、生ける神の最高の支配権を認めるように導かれたならば、何と大きな変化が起こつたことであろう。」（国と指導者上巻 309）

- b. 主はなぜ、ヒゼキヤのような事情が起こったときに、しばしばわたしたちが過ちを犯すことを許されるのですか（歴代志下 32:25, 31）。

「もしヒゼキヤが、イスラエルの神の力と恵みとあわれみについてあかしを立てるために、彼に与えられた機会を活用したならば、使者たちの報告は暗黒を照らす光となつたことであろう。しかし彼は、万軍の主よりも自分自身を賛美したのである。」（同上 310, 311）

- c. ヒゼキヤの失敗の物語から、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか（箴言 2:6-11; 11:2; 16:18; 21:2）。

「使者たちの訪問に当たってヒゼキヤが自分に与えられた信任に背いた物語は、すべてのものに重大な教訓を教えている。われわれは自分たちの経験の中の尊い出来事、神のあわれみといつくしみ、また、救い主の愛の比類のない深さなどについて、これまでよりもっと多く語らなければならない。われわれの心と思いが神の愛に満たされているときに、霊的生活のことを他の人々に伝えることは難しくなくなる。偉大な思想、高尚な熱望、真理についての明快な理解、無我の目的、敬虔な生活と聖潔への願望などは言葉となってあらわれ、心に秘められた宝がどんなものであるかを示すのである。」（同上 312）

4. ヒゼキヤは自責の念に満たされた

- a. バビロンの使者たちが去るや否や、主はヒゼキヤの間違いを譴責するために、イザヤを遣わされました。預言者は何と言いましたか（列王記下 20:16-18）。

「バビロンの王と大臣たちは、エルサレムの宝によって自分たちを富まそうと計画するであろうということがイザヤに示された。ヒゼキヤははなはだしい罪を犯した。「怒りが彼とユダおよびエルサレムに臨もうとした」のである(歴代志下 32:25 下旬)。」(国と指導者上巻 311)

- b. 自責の念に満たされて、王は自らを主の前にへりくだらせ、何と言いましたか（歴代志下 32:26; 列王記下 20:19）。

「悪の種はまかれたのであった。そして、やがてそれは芽生えて、荒廃と悲哀という収穫を実らせるのであった。ユダの王はその後の年月の間、過去の償いのためと彼が仕える神のみ名の栄えのために着実に歩んだので、大いに繁栄するのであった。しかし彼の信仰は激しく試みられるのであった。そして彼は、主に全く信頼することによってのみ、彼を破滅に陥れ、彼の民を全滅させようとしていた悪の勢力に勝利することができることを学ぶのであった。」(同上 312)

- c. わたしたちがもし伝道者として他の人々の前に良い模範を残さないとすれば、どのような成功を期待することができますか（テモテ第一 4:12, 16 ; ヘブル 12:13）。

「われわれが日ごとに交わる人々は、われわれの助けと指導を必要としている。彼らの心は、折にかなって語られる言葉に力づけられる状態にあることであろう。これらの人々の中には、明日ふたたび接することができなくなってしまう者がある。われわれはこれらの旅の道づれに、どんな感化を及ぼしていることであろうか。……一つの軽率な行為、一つの分別を欠いた歩み、また何か強い誘惑の波が押し寄せて、人を墮落の道に流してしまうのである。」(同上 312)

「一つの模範は多くの教訓にまさる。」(ミストリ・オブ・ヒーリング 121)

5. わたしたちの唇と歩みを見張る

- a. 神はキリストに真に従う人々に何を期待されますか (ヤコブ 2:12)。
- b. 神の裁きのみ座の前で、何がわたしたちに言い訳を残しませんか (ローマ 2:1-3)。

「われわれは日ごとの生活において負わなければならない義務が与えられている。毎日われわれの言行は、交わる人々に印象を与えている。われわれの唇に門番をおき、われわれの歩みを注意深く見守ることが何と必要なことであろう。一つの軽率な行為、一つの分別を欠いた歩み、また何か強い誘惑の波が押し寄せて、人を墮落の道に流してしまうのである。われわれは人々の心の中に植えつけた思いを、拾い集めることはできない。もしそれが悪いものであれば、われわれは一連の出来事、悪の潮流を始動させたのであって、それを止める力はわれわれにはないのである。

他方もしわれわれが自分たちの模範によって、正しい原則を発達させるように他の人々を助けたとするならば、われわれは彼らに善を行う力を与えるのである。今度は彼らが同様の有益な感化を、他の人々に及ぼすのである。こうして幾百幾千という人々が、われわれの無意識の感化によって助けられるのである。キリストの真の弟子は接触するすべての人の、善を行おうとする精神を強める。神を信ぜず罪を愛する世界の前で、彼は神の恵みの力と神の品性の完全さをあらわすのである。」(国と指導者上巻 312, 313)

個人的な復習問題

1. ヒゼキヤ王の栄えた治世の最中、彼に何が起こりましたか。
2. 彼が熱心に主に祈った後、彼はどのような答えを受けましたか。
3. ヒゼキヤはバビロンからの使者たちを迎えたときに、どのような過ちを犯しましたか。
4. ヒゼキヤの失敗の物語から、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか。
5. クリスチャンの伝道者として成功するために、わたしたちはどのように自分たちの唇と歩みを見張らなければなりませんか。

国家的な怠慢からの教訓

「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。しかし、あなたがたが拒みそむくならば、つるぎで滅ぼされる。」（イザヤ 1:19, 20）

「自分たちの背信と反逆によって、諸国家の間で光を担う者として立つべきであった人々は、神の裁きを招いていた。」

（ビュー・アンド・ヘルド 1915 年 3 月 4 日）

参考文献：国と指導者 270-284

日曜日

6 月 22 日

1. 世に対する力強い証

- a. イスラエルの子らはカナンにおける自分たちの聖なる祭りの間、どのような歌をうたいましたか（申命記 31:30; 32:1-3）。この歌は近隣諸国にどのような感化を及ぼしたはずですか（詩篇 67:2）。

「イスラエルの民は、荒野を旅したあいだ、聖なる歌をもって神をたたえた。……また、カナンにおいては、聖なる祭りに彼らがつどうごとに、神のくすしきみわざについて語り、そのみ名への感謝をささげた。神は、その民の全生活が賛美の生活であるようにお望みになった。」（キリストの実物教訓 277, 278）

- b. わたしたちがイエス・キリストの福音を通して神から大いなる祝福を受けてきたことを世に示すもっとも効果的な方法は何ですか（詩篇 145:5, 6）。

「わたしたちは今より以上に、もっと自分のとうとい体験を語る必要がある。」（同上 278, 279）

2. くりかえされた訓告

- a. 主はどの言葉で、ご自分の民の前に彼らの不忠実の結果を示されましたか（申命記 8:18-20）。

「〔申命記 28 章引用〕。〔条件的な祝福の〕これらの真理をすべての人の心にさらに深く刻むために、モーセはこれを韻文の形で表現した（申命記 32 参照）。この歌は歴史的であるばかりでなく、預言的でもあった。それは、過去において、神がご自分の民にとられた驚くべき態度を回顧すると共に、未来の大いなるできごと、キリストが力と栄光のうちに二度めにおいでになるときの忠実な者の最終的な勝利を予表していた。民はこの詩にうたわれた歴史を暗唱し、それを子や孫にまで教えるように命じられた。それは礼拝に集まった会衆によってうたわれ、人々が日常の仕事にとりかかるときにくり返されることになった。自分の子供たちの物覚えのよい頭にこの言葉を刻み込んで、決して忘れないようにすることが親の務めであった。」（人類のあけぼの下巻 84, 85）

- b. 荒野の旅路の終わりに、イスラエルの民に、モーセはどの訓告を述べましたか（申命記 28:1, 2, 9-11, 58, 59, 64）。

「モーセは彼らの注意を、『あなたがホレブにおいて、あなたの神、主の前に立った日』に向けた。そして、彼はヘブルの民に訴えた。『いずれの大いなる国民に、このように近くおる神があるであろうか。また、いずれの大いなる国民に、きょう、わたしがあなたがたの前に立てるこのすべての律法のような正しい定めと、おきてとがあるであろうか』（申命記 4:10, 7, 8）。今日、イスラエルに対して言われたこの訴えがくり返されてよい。神が昔の民にお与えになった法律は、世界の文明諸国の法律よりは、はるかに知恵深く、優秀でより人道的であった。諸国の法律は、新しくされていない心のもつ弱点と、激しい感情を表示している。しかし、神のおきては天の刻印を帯びている。……それでもなお、偉大な指導者〔モーセ〕は、民が神から離れはしなやかと恐れた。彼はおごそかに、従順を条件として与えられる祝福と、み言葉に従わない場合にくだるのろいとを彼らに示した。』（同上 81, 82）

3. 大失望

- a. イスラエルは国家として、神から受けた聖なる信任をどのように取り扱いましたか(エレミヤ 2:21; ホセア 10:1)。

「しかし、イスラエルの人々は神の代表者としての尊い特権を見失っていた。彼らは神を忘れ、聖なる使命を果たさなかった。彼らが受けた祝福は世の祝福とならなかった。彼らは、自分たちが持つすべての有利な状態を、自己を高めるために用いた。」(患難から栄光へ上巻 6)

- b. モーセを通して与えられた神の預言的な訓告は、どのようにユダの諸王の時代に成就しましたか(歴代志下 36:14-17, 20; エレミヤ 39:8, 9)。

「イスラエルの子らは神から離れ、神を尊ばない諸国家の方法や習慣から守るために与えられた原則を守らなくなったために、バビロンへ捕囚として連れて行かれた。主は彼らに繁栄をお与えになることがおできにならなかった。彼らが熱心を守るようにとお与えになった原則に不忠実である間は、彼らにご自分の契約を果たすことがおできにならなかった。彼らの精神と行動によって、彼らはこのお方のご品性を誤り伝えた。そのために、このお方は彼らが捕囚としてとらえられることを許された。彼らの神からの分離のゆえに、神は彼らを低くされた。このお方は彼らを自分自身の道に任せられた。そして無実な者も罪ある者と共に苦しんだ。」(SDA パイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1040)

- c. 神はどのようにイスラエルに対するご自分の失望を表わされましたか(イザヤ 5:1, 2, 25)。

「ユダヤ人は、この警告をかえりみななかった。彼らは神を忘れ、神の代表者としての特権を見失った。彼らがどんなに祝福されてもそれは世界になんの祝福ともなかった。彼らの特権はことごとく、自分たちの名誉を高めることに当てられた。彼らは神の要求なさる奉仕をおこたり、同胞に宗教上の指導と聖なる模範をたれることをしなかった。」(キリストの実物教訓 270)

4. イスラエルは諸国家の間に散らされた

- a. ユダの最後の王のふるまいと運命について、何と記されていますか（歴代志下 36:11-13; エレミヤ 39:4-7）。

「〔ゼデキヤの悲惨な終わりの記録〕は、譴責の下で自らをかたくなにする人々、また悔い改めのうちに自らを低くしない人々にとって、神がお救いになることができるための、なんという悲しい恐るべき警告であろう。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 2 巻 1040)

- b. 神の選民はすでに信頼に値しない者であることを表わしていたにもかかわらず、彼らを諸国家の間に散らされることによって、何が成し遂げられなければなりませんでしたか。

「主はご自分の真理の知識が世に伝えられるように、〔ご自分の民を〕散らされた。もし彼らが忠実で、真実で、従順であるならば、神は彼らを再び、自分たちの地に連れ帰られるのであった。……

イスラエルの子らの中には、クリスチャンの愛国者がいて、彼らは原則に対して鋼のように忠実であった。そしてこれらの忠実な人々を主は大いなる喜びを持ってご覧になっていた。これらの人々は利己心によって墮落せず、誤った方法や習慣に従うことによって神のみ働きを傷つけることなく、すべてを犠牲にしても神に誉れを帰す人々であった。彼らは罪ある者たちと共に苦しまなければならなかったが、神のみ摂理において彼らのバビロン捕囚は、彼らを全面に出し、彼らの曇りのない高潔の模範が天の輝きをもって照らしたのである。」(同上)

- c. エルサレムにいた信者たちに及んだ迫害の結果は何でしたか（使徒行伝 8:1, 4, 5）。

「彼らは新しく改心した人たちに福音を宣べさせる教育をするどころか、既になし遂げられた事に、みんなで満足しているだけで終わってしまうような危険に陥っていた。神はご自分の代表者たちを広く散らして、その行く先々で他人のために働くことができるように、彼らの上に迫害の手がのびるままにしておかれた。信者たちはエルサレムを追われて、『御言を宣べ伝えながら、めぐり歩いた』（使徒行伝 8:40）。」（患難から栄光へ上巻 109）

5. 誤った安心感というはなはだしい危険

- a. バプテスマのヨハネは、どのようにユダヤの民の誤った安心感を揺さぶりましたか（マタイ 3:9）。

「ユダヤ民族は、自分たちは天の寵愛（ちょうあい）を受けており、神の教会としていつどんな時でも称揚されることができると考えていた。彼らは、自分たちはアブラハムの子だと言明していた。そして彼らの目にはその繁栄の基礎はゆるぎのないものに映じ、その権利を奪えるなら奪ってみよと天地に公言してはばからなかった。しかし彼らは、その不忠実な生活を送ることによって、みずからに罪の宣言を下し神から切りはなされるために道を開いたのであった。」（キリストの実物教訓 274）

「ユダヤ人はイスラエルに対する永遠の恩恵についての神の約束を誤解していた（エレミヤ 31:35-37 参照）。ユダヤ人は、自分たちがアブラハムの直系の子孫であるということがこの約束を受ける資格であると考えていた。しかし彼らは神が明示された条件を見落していた。……

心に神の律法をしるされる民に、神の恩恵が保証されている。彼らは神と一つである。ところがユダヤ人は神から離れていた。……

こうしたことは、『世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである』（コリント第一 10:11）。われわれは、どんなにかたびたび神の祝福を誤解し、自分たちのうちに何かよいところがあるから恵まれるのだとうぬぼれることだろう。神はわれわれのためにしたいとお思になることをなさることができない。神の賜物は、われわれの自己満足を増長させ、われわれの心を不信と罪の中にかたくなにするために用いられる。」（各時代の希望上巻 107, 108）

個人的な復習問題

1. この世において、わたしたちの会話の主題が何であるべきかを述べなさい。
2. モーセが荒野における旅路の終わりに宣言したことを、わたしたちは自分たちの領域で、どのように繰り返すべきですか。
3. 今日わたしは、聖なる信任をいかに良く取り扱っていますか。
4. バビロンの捕囚をどのように避けることができたはずですか。
5. 主はイスラエルの民を何の目的のために諸国家の間に散らされたのですか。

第一安息日献金



4月5日

ホンジュラスの伝道学校のため
(4 ページ参照)

5月3日

世界ミッションのために
(25 ページ参照)



6月7日

インド・アンドラプラデシのため
(46 ページ参照)